

令和1年11月15日

小野市議会議長
川名善三様

派遣議員 前田光教 印

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日

令和1年10月30日（水）～ 令和1年11月1日（金）

2 派遣議員

村本洋子 藤原貴希 喜始真吾 久後淳司 河島三奈 高坂純子
前田光教 小林千津子 岡嶋正昭 川名善三



3 派遣先及び内容

高知県高知市 「第14回全国市議会議長会研究フォーラムin高知」
兵庫県洲本市 「全天候型陸上競技場の整備について」

4-1 調査・研修結果

[第1・2日 高知県高知市 第14回全国市議会研究フォーラムin高知]

「議会活性化のための船中八策」

●高知県高知市（開催地）

人口 332,059人 162,446世帯（平成29年度）

面積 309.0km² 人口密度 1074.6人/km²

財政力指数 0.56 将来負担比率 164.4%（平成29年度）

●主催者挨拶内容 全国市議会議長会会長 「野尻哲雄氏」大分市議会議長

地方分権改革の進展に伴い、市議会の役割と責任が高まるなか、市議会は継続的な自己改革に取り組み、議会の魅力を高め、住民の信頼を確保する必要がある、社会経済の急速な構造変化を背景に、市議会には多様化する民意の市政への反映と集約が期待されており、そのため、議会への多様な人材の参画や、議会改革の深化を図る必要がある。

今回の研究フォーラムは、全国の市区議会議員が一堂に会し、議会の役割の更なる充実を目指し、共通する課題や今後の議会のあり方について意見交換を行うと共に、議員同士の一層の連携を深めることを目的とし、高知が生んだ国民的英雄である坂本龍馬の船中八策にならない「議会活性化のための船中八策」をテーマとし、現場の課題とその対応策、併せてこれからの議会像・議員像について広く討議する。

≪第1部≫ 基調講演「現代政治のマトリクス」ーリベラルと保守という可能性ー

○「中島岳志」氏 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

1975年大阪生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科博士課程修了。学術博士(地域研究)。2005年「中村屋のボース」で、大仏次郎論壇賞、アジア太平洋賞大賞を受賞。北海道大学大学院准教授を経て、現在、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授。著書に『ナショナリズムと宗教』『秋葉原事件』『「リベラル保守」宣言』『血盟団事件』『岩波茂雄』『アジア主義』『親鸞と日本主義』『保守と立憲』『超国家主義』『自民党』などがある。

≪第2部≫ パネルディスカッション「議会活性化のための戦中八策」

○コーディネイター 「坪井 ゆづる」氏 朝日新聞論説委員

○パネリスト 「高部正男」氏 市長村職員中央研修所学長

「横田響子」氏 株式会社コラボ代表取締役

「古川康造」氏 高松丸亀町商店街振興組合理事長

「田鍋剛」氏 高知市議会議長

●第2部での発言（多種多様）

○厳しい世論の中で活力と質の高い議会を実現していくための具体策を

○市議会改革への取組みの広がり（議会基本条例制定60.8%）

○自治体議会について指摘される問題点

→ 投票率の低下・議会への無関心・議員のなり手不足・議員構成の偏り・

女性と若手の参加・政務活動費の不正使用・議員の不祥事

○議会活動について厳格な定義と議会運営についての詳細な規則

- 多様な人材確保
 - 休日夜間議会・理事会型（議会－支配人等）・選挙制度の見直し（選挙区制・連記制・選挙運動）・兼職規制の弾力化・住民参加の事業仕分けで経験
- 人口減を前提に中長期的視点で街の目指す方向を議論

≪第3部≫ 意見交換会

≪第4部≫ 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

- コーディネイター 「坪井ゆづる」氏 朝日新聞論説委員
- 事例報告者 「滝沢一成」氏 上越市議会議員
- 「久坂くにえ」氏 鎌倉市議会議長
- 「小林雄二」氏 周南市議会議長

●第4部での発言（多種多様）

- 女性議員 → 女性ゼロ議会の存在・選挙中のセクハラ・票のセクハラ
- なり手不足 → 1788市町村議会中27%の議会で課題
 - 今後の展開で地域の将来像を予測
- 議員報酬 → 4年間で報酬を変更したのは400議会
 - （減額49市議会・増額166市議会）
 - 住民理解により議員専業で生活できる報酬の確保が必要
- 基本条例 → 基本条例の標準装備化
- 3ない議会 → 1. 首長提案議案をひとつも否決・修正していない
2. 議員提案の政策条例をひとつも制定していない
3. 議員個人の賛否を公開していない
 - 議会の意思を可視化

5-1 所感

船中八策をテーマとして開催された、14回をかぞえる全国研究フォーラムでありましたが、時代背景などを鑑みテーマも選定され開催されています。基本的な進行スタイルは「基調講演」から始まり、「パネルディスカッション」、「意見交換会」、最後に「課題討議（発表）」の流れであり、時代の流れの方向性としては「地方分権」から「議会改革」へ、そして現在は「議会活性化」といった指針でフォーラムが開催されているかと感じています。

●近年のテーマは

第 9 回 開催地「岡山県岡山市」(平成26年8月)

基調講演 「人口減少時代と地方議会のあり方」

第 10 回 開催地「福島県福島市」(平成27年11月)

基調講演 「大震災からの復興と備え」

パネルディスカッション「震災復興・地方創生の自治体の役割」

課題討議 「震災復興と議会～現場からの報告」

第 11 回 開催地「静岡県静岡市」(平成28年10月)

基調講演 「二元代表制と議会の監視機能」

パネルディスカッション 「監視権の活用による議会改革」

課題討議 「監視権を如何に行使すべきか」

第 12 回 開催地「兵庫県姫路市」(平成29年11月)

基調講演 「議会改革の実績と議会力の向上」—政策創造の立法部を考える—

パネルディスカッション 「議会改革をどう進めていくか」

課題討議 「議会基本条例のこれまでとこれからを考える」

第 13 回 開催地「栃木県宇都宮市」(平成30年11月)

基調講演 「共生社会と地方自治体」

パネルディスカッション 「議会と住民の関係について」

課題討議 「議会と住民の関係について」

北海道夕張市の破綻により、隣接の栗山町議会が危機感を感じ、「議会の機能」を果たせているか、役割を担い地方公共団体の継続的な住民サービスを行うための議会のスタンスを表明したのが「議会基本条例」という栗山町議会での最高規範と感じています。

その議会基本条例が評価を得、全国に広がりを見せ、今では60%を超える議会で制定されていると耳にします。

それらの状態が、研究フォーラムにも影響し、議会改革が叫ばれる中で、議会改革イコール議会基本条例の制定として扱われている状況を感じます。全国300程度の市議会が基本条例を制定した頃、基本条例が機能していない、また、条例の検証、一部の議員間では条例廃案までが議論されていた頃もありました。議会改革は基本条例の制定といった動きが、結果として議会の活性には繋がらなかった自治体議会もあるのではないかと感じたこともありました。

地方分権一括法による地方議会の機能への責務と期待、そして議会改革、現在は議会活性化が叫ばれ、全ては住民自治の成熟、市民の満足度、市民福祉の向上への思いからではあるものの、手法に満足し、その理念たることを忘れてしまえば、結果として自治体破綻とは言わないものの、市民の皆様の納得できる存在ではないとされてしまいます。

●研究フォーラムでの議会活性化のための八策として提示（まとめ）

- 1 行政監視（機能）
- 2 次世代を考える（将来）
- 3 データーに基づく（EBPM）
- 4 多様性を確保する（人材）
- 5 地方自治法96条の活用（議決権）
- 6 労働法制整備（報酬他）
- 7 情報公開
- 8 議員間の合意形成（議員間討議）



●個人的感覚の議会活性化八策

- ① 情報共有（地方議員としての情報収集力の向上・スピード感の情報）
- ② 未来の創造（将来創造力）
- ③ 議員間討議（合意形成・政策立案・課題の抽出）
- ④ 組織力（議会力・チームとしての議会・1首長 v s 1議会）
- ⑤ 実感（達成感・やりがい）
- ⑥ 魅力ある報酬額（区別化・差別化）
- ⑦ 人材確保（魅力ある議員の養成・育成）
- ⑧ 情報公開（戦略的広報の実施・真実の公開・議員評価・議員の通信簿公開）

議会を活性化に導くには、それぞれの議員が、地方議員としての情報を収集するアンテナを持ち、議員間での「情報共有」の上で、また、「未来を創造」する思考を意識し、議員が「議員間討議」を交わし課題等を抽出し、合意形成・共通認識の上、議会という「組織力」をもってこそ政策提言、事業の具現化も図れるものと思います。

それらが「実感」としてやりがいを感じられ、達成することで市民の皆さんに納得してもらえるインセンティブとして「魅力ある報酬額」を得ることも大切であると思います。

そんな議会、議員が市民から魅力的として位置づけられると、魅力ある人には人が集い、なり手不足に陥ることなく「人材の確保」も保たれるものと思います。それらの流れを含み、すべてを「情報公開」することで、信頼される活性化した議会に近づくことも考えられると感じたところです。

ちなみに、個人的展望ではありますが、情報公開では「議員の通信簿」、議員評価を年1回、議会だよりを通じて公開できればと思っています。なかなかハードルは高いですが、それらの効果は多岐にわたり考えられるものと思います。

4-2 調査・研修結果

[第3日 兵庫県洲本市 全天候型陸上競技場の整備について]

●兵庫県洲本市

人口 44,258人 18,081世帯 (平成27年度)

面積 182.38km² 人口密度約 242.7人/km²

財政力指数 0.52 将来負担比率 116.8% (平成28・30年度)

議員定数 (条例) 18人 現員数18人 (平成31年4月1日)

◀項目▶ 全天候型陸上競技場の整備について

●東播・淡路議長会資料 (会員市提出議案第2号)

淡路島内への全天候型陸上競技場の整備について

淡路島内の陸上競技場については、洲本市民交流センターの陸上競技場が唯一の施設であり、昭和43年10月に開設して以降、50年が経過し施設の老朽化が著しくなっています。

また、認定が第4種であるため、トラックが全天候型ではなく、土で整備されていることから、淡路島内の児童・生徒・学生等が土のトラックで記録を出して県大会等に出場しても、県大会等の会場が全天候型のトラックで実施されるため、戸惑いが生じ、好成績を収めにくい状況にあります。ちなみに、兵庫県下では、淡路地域だけ全天候型のトラックがない地域となっています。

さらに、サブグラウンドがないため、ウォーミングアップをする場所がないうえに駐車場も不足するなど、様々な利用に対する問題点があります。

一方、日本国内のスポーツ情勢に目を転じますと、今年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年のワールドマスターズゲームズ2021関西と3年連続する「ゴールデン・スポーツイヤーズ」を迎え、老若男女を問わず、スポーツへの関心や健康志向の高まりが期待されるところであります。

この機を捉えて、淡路島全体でスポーツツーリズムを推進するためにも全天候型の陸上競技場の整備は、急務であると考えます。

つきましては、県において、淡路島内へ、周辺施設を含めた1周の距離が400メートルとなる第3種の全天候型陸上競技場の整備について、強く要望します。

5-2 所感

淡路3市から東播淡路議長会、兵庫県議長会へ提出された要望が可決されている全天候型陸上競技場整備について現場視察を行いました。淡路3市の状況は理解しましたが、個人的には3市でのこれまでの協議、各市からの建設的・創造的・将来的な提案等、状況を十分に理解ができていなところもあり、今後の動向を見守りたいと思います。

令和 1年 11月 15日

小野市議会議長
川名善三様

派遣議員 岡嶋正昭 ㊞

議員派遣報告書

先般、実施しました 全国市議会議長会フォーラム・兵庫県洲本市への 議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣実施日 令和 1年 10月 30日（水）～令和 1年 11月 1日（金）

2 派遣議員

川名善三議長、久後淳司副議長、前田光教議員、小林千津子議員、高坂純子議員、河島三奈議員、喜始真吾議員、藤原貴希議員、村本洋子議員、岡嶋正昭以上10名

3 派遣先及び調査内容

(1) 高知県高知市

全国市議会議長会研究フォーラムへの参加
大会テーマ

議会活性化のための“船中八策”

場 所：高知ちばさんセンター

【第一日目】 令和元年10月30日（水）

第一部 基調講演

[共生社会と地方自治体]

講師：中島 岳志氏(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

1. 政治のマトリクス

- ・田中内閣 列島改造論(保守の本流)
- ・大平内閣 自由主義として発展していく
- ・小泉内閣 カトリック プロテスタントの対抗
- ・安倍内閣 = 公明党(連立政権) 父権的
公務員の非正規化が5%を超えている。

二大政党制 ⇒ やがて、政策が似てくる ⇒ 支持率の低下につながる。

…立憲民主党の埋没(新たな政策の欠如)

+ 永田町の論理(参議院での身内争い)

保守とは何か？

- ・カール・マンハイム「保守主義的思考」より。
 - ・伝統主義(自然的保守主義)と保守主義
 - ・我々は、普遍的な人間の本性としての伝統主義と、ひとつの特殊な歴史的・近代的現象としての保守主義を区別する。
- ・エドマンド・バーク「フランス革命についての省察」
 - ・フランス革命に反映された人間観への不信 … 「裸の理性」への懐疑
- ・懐疑主義的人間観
 - ・過謬的存在としての人間
 - ・真に理知的な人間は、理知の世界を理知的に把握する。
 - 人間(および人間社会)の完成不可能性
 - ・個人の理性を超えた存在…集団的経験値、良識、伝統、週間、超越的存在…
 - ・設計主義的合理主義への批判
- ・「復古」「反動」「進歩」への懐疑…」社会は完成しない
- ・斬新主義
 - 保守するための改革
- ・「ニーバの祈り」
 - ・「神よ、変えることの出来るものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。識別する勇気を与えたまえ。」
 - ・私たちの現在は、膨大な過去の蓄積・知的財産に成立している
 - 「改革」とは、過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整
 - ・成文憲法の存在しないイギリスの立憲主義
 - 死者の立憲主義

第二部 パネルディスカッション

「議会と住民の関係について」

コーディネーター：坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

「自治の主役」にふさわしく

議会は地方政治、自治の主役である。

首長に比べて、スポットライトを浴びる機会は少なくとも、予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来性を左右する重大な使命を担っている。

当然、その分責任は重い。すべての議会にあたって、公明正大で説明可能な判断を求められていると思う。

かつては、政府が首長に合わせた膨大な仕事に、議会は口をはさめない仕組みだったので、議会は単なるわき役に過ぎなかった。そんな時代の議員活動といえば、地域の要望を行政につなぐ「口利き」が当たり前だった。また、市民も当然のように支持してきた。

変化の起点は、2000年の地方分権一括法だ。自治体の現場の裁量に委ねられる仕事の量が増えたのに伴い、首長だけでなく、議会も自前で決断し、行動しなくてはならなくなってきた。（まもなく20年になる）

この間、分権改革の流れの中、議会改革が繰り返し叫ばれてきた。そして、議会基本条例をはじめ、幾多の成果を残してきた。住民との距離を縮め、明らかに進化を遂げた議会もある。

世論は実に厳しい。「いまだに『自治の主役』の自覚に欠ける議員が存在している」という「議会不信」が根強くあるのは否定しがたい事実ではないか。選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるもの、議会に向けられた冷ややかな視線の表れに見える。

こうした世論を踏まえつつ、このフォーラムを活力があり、質の高い議会を実現していくための具体策を考える機会にしたと考える。

⇒ だから名づけて「議会活性化のための船中八策」

パネリスト：高部 正男氏（市町村職員中央研究所学長）

1. 市議会についての現状認識

○ 市議会改革への取組の広がり

議会基本条例制定 60.8% 議会報告会の開催 53.7%

○ 自治体議会について指摘される問題点

- ① 投票率の低下 議会への無関心
- ② 無投票当選の増加 議員のなり手不足
- ③ 議員構成の偏り 女性、若者の参加
- ④ 政務活動費の不正使用等 議員の不祥事

2. 自治体議会をめぐる状況変化

- 市町村合併の進展 ⇒ 市町村議会議員の減少
- 議会運営の弾力化 ⇒ 議会活動について厳格な定義
議会運営についての細部にわたる規制

3. 議会基本条例の制定

- ・ 条例は改革の出発点 制定後、議会改革に取り組み、議会活性化へ…。

4. 今後の自治体議会のあり方

多様な人材の市議会への参画促進に関する決議（全国市議会議長会第95回総会）

中長期的な制度への課題

選挙制度の見直し 選挙区制、連記制、選挙運動等

早急に検討すべき事項 地方選挙の統一 兼職・兼業規制に弾力化 年金加入

パネリスト：横田 響子氏（㈱コラボ代表取締役）

議会に必要なこと

- ・ 20年後の住民は幸せですか？
- ・ やりっぱなしになってませんか？（数字(EBPM)とともにPDCAは？）
- ・ 若手・女性の参加は？（巻き込んで街を活性化する策は？）

議会改革の具体的なアイデア

人口減少を前提に、中長期的視点で街の目指す方向を議論

ガチンコ会議を多様な人材で実施

パネリスト：古川 康造氏（高松丸亀商店街振興組合理事長）

高松丸亀町まちづくり戦略

住民をベースにしたデベロッパーによるメインストリート再生計画を作成

土地の所有と利用を分離した、市中心部の土地の有効活用へ

- ・ 定期借地により土地の所有と利用の分離
- ・ まちづくり会社が、商業床を一体的にマネジメント
- ・ 地権者がリスクを負う変動地代

⇒ 新しい商店街のかたちをめざして…。

⇒ 公共性に目覚めた新しい街へ

中心地に住民がいなくなった。→ 郊外の人ばかりが議員へ

地域に役立たない議員は要らない。地域のために働ける議員が必要！

パネリスト：田鍋 剛氏（高知市議会議長）

市域面積 309.00km²

人口 328,283人(10年前より3.5%減少)

65歳以上高齢者割合 29.2%超高齢社会(10年前22.6)

議員定数 34名(H23より変化なし)

投票率 42.64% → 36.55%へ

主な議会改革の取組

- ・委員会を原則公開
- ・市議会ホームページの開設、会議録検索システムを追加
- ・市議会議員政治倫理に関する条例を施行
- ・議会独自の行政評価を開始
- ・政務活動費の領収証など関係書類をホームページで公開
- ・予算決算常任委員会を設置等

【二日目】 令和元年10月31日（木） 午前九時より

課題討議

「議会と住民の関係について」

コーディネーター：坪井ゆづる氏

アンケートにより

- ・女性議員 2割の議会でゼロ
(家族・地域の壁、議会も地域も男性中心、「票」の力でセクハラ党)
- ・なり手不足 課題になっている。
- ・報酬 住民の理解を得て、議員専業で暮らしていける報酬を受けれるようにすることが重要だ。
- ・議会基本条例 全議会の63.7%が制定。

事例報告者：滝沢 一成氏（上越市議会議長）

上越市議会

市議を目指しやすい環境整備への提言

参考：R1.9月末現在

女性議員0人（唯一の女性議員は県議選出馬で辞職）

議員平均年齢 63歳

- ・市議会議員を目指すことを阻害する現状の要因など把握し、その改革案を策定する。
- ・議会の気力を見せ・魅せて…。

まずは、やる気にさせる。 → ころの問題解決へ

その上で阻害要因を取り除く → 物理的問題解決

⇒ 議会改革推進こそ、
議員を目指す人々を獲得する最大の力！

事例報告者：久坂 くにえ氏（鎌倉市議会議長）

女性議員の現状の視点

出産が欠席自由として規定されていない(期間の明記もない)
環境整備に向けて

- 1 出産に伴う議会の欠席に関する規定について
取得期間及び運用についての考え方を明記
- 2 子の看護休暇に関する規定の整備
- 3 配偶者出産休暇の取得
- 4 IPU 「ジェンダーに配慮した議会の為の行動計画」に則った、議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラおよび議会文化の整備又は改善

事例報告者：小林 雄二氏（周南市議会議長）

H16. 5月 合併誕生後、議員報酬問題により議会解散
選挙後、議会改革に取り組む

- ・政治倫理条例の制定(H17. 6月)
- ・議長立候補制の導入
- ・会議録検索システムの導入
- ・議員定数条例の制定・議員定数の見直し
- ・政務調査費使途基準運用指針の策定
- ・決算審査における議会が行う行政評価の取組のスタート
- ・行政監視機能の充実

所管事務調査の積極的な活用・指定管理者制度に関する調査の実施・その他

〈所 感〉

この度の全国議長会フォーラムを受講し、やはり主には「議会改革」についての講義であり、女性議員の登用・投票率の上昇への取り組み方等での研修でありました。

基本的には多くの講師議員等はやはり「議会基本条例」有りきでの発言のように思います。小野市においては現在では基本条例は制定の方向は有りませんが、独自の改革はいろいろと取り組んでおります。ただ、全国的な状態においての評価は何故か低くランク等においては表に現れてきていません。

政務活動費の廃止や議会報における市議会での情報発信等これからも少し違った方向から改革に取り組んでいくことの重要性を更に強く感じたフォーラムであったと感じています。

【第三日目】 令和元年11月1日（金）

洲本市役所：兵庫県洲本市本町三丁目4番10号

人口：約4万4千人 面積：182.38km²

内 容

全天候型陸上競技場の整備について

市民交流センター陸上競技場の概要

開 設 : 昭和43年10月（第4種公認コース）

敷地面積 : 22.001m²

仕 様 : 4種公認陸上競技場

- ・トラック1周400m×8コース
- ・走り幅跳び、走り高跳び等のフィールド協議を行う場所には全天候型の舗装を施行
- ・管理棟(管理室、シャワー室、更衣室等)
倉庫(陸上競技備品の収納)

《所 感》

洲本市市民交流センター陸上競技場の整備についての内容でありました。当該競技場の整備について、淡路島内3市での陸上競技場として「全天候型、第4種公認陸上競技場の整備」のため、兵庫県市議会議長会の承認を得て兵庫県へ要望として取り上げられています。

現状の老朽化している施設の改修については必要な取り組みですが、3市又兵庫県域での活用について、今後どの様に扱われるのか？少し疑問を感じたところでもあります。

今後において、このような公共施設のあり方の議論も必要なことと強く感じた施設の現地視察でもありました。

令和 1年 11月 15日

小野市議会議長
川名 善三 様

派遣議員 藤原 貴希 ㊟

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日 令和 1年 10月 30日（水）～令和 1年 11月 1日（金）

2 派遣議員

川名善三 久後淳司 岡嶋正昭 小林千津子 前田光教 高坂純子 河島三奈
喜始真吾 村本洋子 藤原貴希

3 派遣先

- (1) 高知県高知市 『第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知』
- (2) 高知県高知市 『第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知』
- (3) 兵庫県洲本市 『全天候型陸上競技場の整備について』

4 内容

【第1日 第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知 1日目】

高知県高知市（開催地）

人口 327,919人（令和1年11月1日現在） 面積 309.00Km²

≪第1部 基調講演≫

『現代政治のマトリクス～リベラル保守という可能性』

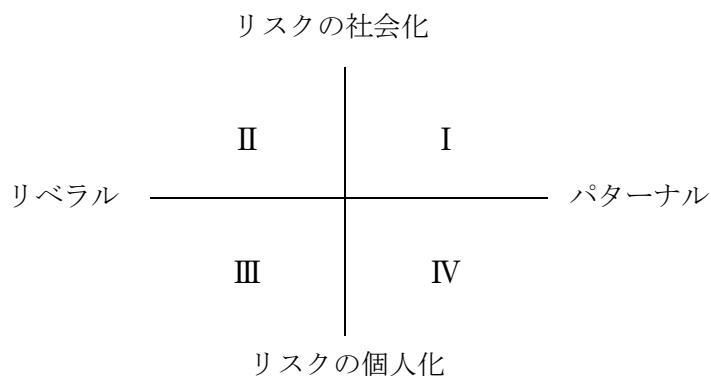
中島 岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

＜プロフィール＞ 1975年大阪生まれ。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程修了。学術博士（地域研究）。2005年『中村屋のポーズ』で大仏次郎論壇賞、アジア太平洋賞受賞。北海道大学大学院准教授を経て、現在、東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授。著書に『ナショナリズムと宗教』、『秋葉原事件』、『「リベラル保守」宣言』、『血盟団事件』、『岩波茂雄』、『アジア主義』、『親鸞と日本主義』、『保守と立憲』、『超国家主義』、『自民党』などがある。

＜講演内容＞

1. 政治のマトリクス

- ・ Y 軸（配分をめぐる軸）：リスクの社会化 vs 自己責任
- ・ X 軸（価値をめぐる軸）：リベラル vs パターナル（父権的）
- ・



- ・ リスクの社会化とは社会全体で対応していこうという姿勢。大きな政府といえる。税収多くサービス多い。
- ・ リスクの個人化とは個人で対応していこうという姿勢（自己責任論）。税収少なくサービス少ない。
- ・ 高度経済成長期、地方の人々が都市部へ移動し始め、社会党をはじめとする革新派が台頭してきて地方が基盤であった自民党は危機を迎える（保守の危機）
- ・ 田中角栄は I であり、II である大平正芳に憧れていた。また大平も自分にはないものを持っている田中に憧れていた。互いに良きパートナーだった。
- ・ 2000 年に入り小泉純一郎（III）が首相となり、自民党はリスクの社会化からリスクの個人化へと変化していった。
- ・ 安倍晋三が首相となり自民党はIVへ移行してきた。
- ・ マトリクスにおいて斜め同士の組み合わせはうまくいかない。例えば希望の党。前原誠司はIIであり、小池百合子はIVであった。
- ・ 斜めの組み合わせで例外的にうまくいっているのは自公連立。公明党はII。

2. ラディカルデモクラシーとポピュリズム

- ・ 新自由主義が台頭。官から民へ。
- ・ 二大政党制では、多数の票を取りに行くために 2 つの党の色は似てくる。結果と

して党が変わっても似た政治となり、主権者の政治への関心が薄れてくる。

- ・ラディカルデモクラシーは熱しやすく冷めやすい。
- ・2017年10月の立憲民主党フィーバー。「枝野立て」で国民の声が届いたという感情が巻き起こるが、時間がたち期待された動きがみられないため国民の声が届いていないことに気づき支持率急落。
- ・2019年のれいわ新選組フィーバー。対抗軸を立て、それと闘っている姿を見せるという闘技デモクラシー。



3. リベラルの逆説

- ・異なる他社といかに共生するのか？という問い。個人の価値の領域には土足で踏み込まない（寛容としてのリベラル）。
- ・「消極的自由」と「積極的自由」という自由のパラドクス。

4. 保守とは何か？

- ・原点はフランス革命。革命に疑問をもったエドモンド・バークは、フランス革命に反映された人間観への不信を唱えた。
- ・フランス革命は「理性ある頭の良い人達が作った設計図に基づいて行動を起こせば人々は平等で平和になる」という思想に基づいた革命。
- ・真に理智的な人間は、磁性の限界を理智的に把握する。「人間は間違える生き物である」
- ・「保守するための改革」が必要ではないか。先人たちが培ってきたものを守りながら、少しずつ微調整して変えていく必要があるのではないか。
- ・違う意見に耳を傾け、落としどころを見つける作業が必要。
- ・大平正芳は「政治は60点が良い」と言った。その真意は、もし100点とするなら、自分は間違えることはないという過ちを犯してしまう恐れがある。
- ・野党はリベラル保守に居場所があるのではないか。

《第2部 パネルディスカッション》

『議会活性化のための船中八策』

コーディネーター：坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

パネリスト：高部 正男氏（市町村職員中央研修所学長）
横田 響子氏（株式会社コラボ代表取締役）
古川 康造氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）
田鍋 剛氏（高知市議会議長）

・高部氏

議会にまつわる問題点として①投票率の低下、②無投票当選の増加、③議員構成の偏り、④政務活動費の不正使用を挙げられた。それらの対策として①選挙期日を自治の日（10月5日）にする、②選挙区の見直し、③労働法制の見直し、兼業・兼職規制の弾力化、議員の厚生年金への加入などを提案された。

・横田氏

議会に必要なこととして①20年後のことを考える、②やりっぱなしではなく、EBPMとPDCAが必要、③若手や女性など多様な人材の参加を挙げられた。①議会改革のアイデアとして、『未来カルテ』を利用し将来像を予測する、②会議の構成員を多様化する、③住民にも事業仕分けなどに参加してもらい接触機会を増やすことなどを提案された。



・古川氏

そもそも議会改革は必要なのかという問題提起。議員は何をやっているのか分からない。議員＝悪というイメージがあるのではないか。議会では理事者側の答弁は文章を読むだけ。市民の中では、自分に都合の良いことを勝手に決めてくれればいい。だけど自分に都合の悪いことは許さない、というマインドがあるのではないか。

・田鍋氏

首長の権限が強い。議会でもっとできることはあるのではないか。地方自治法第96条第1項、第2項をもっと活用すべき。

【第2日 第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知 2日目】

《第4部 課題討議》

『議会活性化のための船中八策』

コーディネーター：坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

事例報告者：滝沢 一成氏（上越市議会議員）

：久坂くにえ氏（鎌倉市議会議長）

：小林 雄二氏（周南市議会議長）

・滝沢氏（上越市議会）

市議を目指しやすい環境整備への提言。市議を目指しやすい環境整備検討会を設置した。市議を目指してもらうには段階が必要と考え、ステップ 1「こころの問題解決：やりがい、おもしろさを全然感じない」、ステップ 2「物理的問題解決：お金・人」。市民との意見交換会を開催。提言書を議長に提出。やりがいのある市議会の姿を見せることでさらなる議会改革を進めるチャンス。見える議会・魅せる議会は、住民協働力・立法力・行政との対峙力・情報収集発信力の揃った議会である。



・久坂氏（鎌倉市議会）

女性議員の現状について。会議規則に出産が欠席事由として規定されておらず、期間の明記もない。会議の運営に関して、多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮はない。また、他自治体でも、出産を病欠扱いにされたり、切迫流産の危険性があり緊急入院となった際、採決を欠席し、他議員に非難されるなどの事実があった。環境整備にむけて、出産に伴う議会の欠席に関する規定について、取得期間及び運用についての考え方の明示、子の看護休暇に関する規定の整備、配偶者出産休暇の取得などが必要。

・小林氏（周南市議会）

平成 16 年 7 月から 1 年間、市民に開かれた議会を目指し議会改革特別委員会を設置。合計 15 回の委員会を開催。議長立候補制の導入（平成 16 年 7 月）や委員会懇親会（ミニコン）制度の創設・開催（平成 17 年 8 月～）、本会議等のインターネット中継のスタート（平成 24 年 12 月～）、スマートフォンやタブレット端末でのインターネット中継のスタート（平成 29 年 5 月～）など、形より実を取った改革を進めている。また、所管事務調査の積極的活用や 100 条委員会の開催などにより行政監視機能の充実を図っている。

・行政監視機能について

委員会での内容をネットで公開している（上越市）、所管事務調査の積極的活用（周南市）

・住民の声をどう集め、どう生かしているか

議会報告会、意見交換会、議会モニター、小中学生傍聴（上越市）。議会報告会、意見聴取会、所管事務調査：市民アンケート・関係団体意見聴取、請願・陳情：直接陳述・質疑応答できる（鎌倉市）。委員会懇親会（ミニコン）（周南市）

・情報公開について

議事録や委員会内容、ありとあらゆる情報を公開、議会の Facebook ページの活用（上越市）

・まとめ（議会活性化のための船中八策）

1. 行政監視機能の向上
2. 次世代を見据えた議論
3. データを踏まえた議論
4. 多様性の確保
5. 地方自治法第 96 条第 1 項、第 2 項の活用
6. 労働法制の見直し
7. 情報公開の徹底
8. 議員間討議を活発に行う

《所 感》

全国から多くの市議会議員が集まり、同じテーマについて考え、議論し、解決策を模索していくという会場の熱気に、ただただ圧倒されるばかりだった。その中で、中島岳志氏による基調講演『現代政治のマトリクス～リベラル保守という可能性』は、非常に明快であり、納得させられる部分が多かった。リスクの社会化・個人化を縦軸、リベラル・パターンルを横軸としたマトリクスに、政党、政治を当てはめたとき、田中角栄と大平正芳というパートナー関係が良好だった理由、希望の党がすぐに崩壊した理由などが視覚的に理解できた。「保守」とは古きをただ守るだけではなく、守りながらも少しずつ微調整していくという「保守するための改革」が必要なのではないかという中島氏の考えには大いに賛同する。

『議会活性化のための船中八策』と題してのパネルディスカッション・課題討議では、「投票率を上げるには」、「議員のなり手を増やすには」、「議会の多様性の確保」、「住民の声を集め、生かす方法」など様々な課題に対して意見が交わされた。最終的には「八つの策」にまとめられたが、結局のところこれといった特効薬はなく、中島氏の言葉を借りると、地道な少しずつの変化の積み重ねこそが重要であり、それこそが改革への唯一の方法なのだと感じた。「船中八策」も大切だが、「暗中模索」しながら手探りで行動していくことがより重要なのではないか。「まずはやってみなはれ」の精神こそが改革に必要なマインドであると強く感じた。

このような議論の場にいられたことは貴重な経験であり、今後の政治活動に生かしていく所存である。



【第3日】

兵庫県洲本市

人口 43,425人 (令和1年10月末現在) 面積 182.38K㎡

《項目》

全天候型陸上競技場の整備について

現在全天候型ではない第4種陸上競技場を全天候型の第4種陸上競技場に改修するために県へ補助申請を行っている件について

《内容》

【市民交流センター陸上競技場の概要】

市民交流センターは文化活動、スポーツ活動及びレクリエーション活動を通して、自己が個性と能力を高めるとともに、教養を深め、健康の増進に資することを目的として、市民交流センターを設置。陸上競技場は同センターの一施設であり、淡路島内で唯一の公認陸上競技場として運営されている。



- ・本館：昭和53年10月開設
- ・プール：昭和63年10月開設
- ・野球場：昭和42年12月開設
- ・陸上競技場：昭和43年10月開設

【施設運営】

開設から平成 21 年まで青少年健全育成協会が管理・運営。平成 16 年に旧淡路勤労センターが兵庫県から洲本市へ移管され、その後は市民交流センターと名称を変更し、野球場及び陸上競技場も一体的に管理。平成 22 年度から指定管理者制度を導入し、「オーエンス・淡路土建グループ 株式会社オーエンス」が指定管理者として運営。

【全天候型陸上競技場】

	第 1 種	第 2 種	第 3 種	第 4 種
舗装材	全天候型舗装	全天候型舗装	全天候型舗装	全天候型舗装が望ましいが土質でも可
走路一周の距離	400m	400m	400m	200・250・300・400m
直送路	8 又は 9 レーン	8 又は 9 レーン	8 レーン	6 レーン以上
インフィールド	天然芝	天然芝	天然芝	人工芝

公認認定は 5 年ごとに行われ、その度に公認条件を満たすための改修工事が行われる。洲本市の当陸上競技場においては令和 2 年 2 月に公認期限を迎えるため、新たな改修工事に約 3000 万円の予算を見込んでいる。

競技場の使用料収入は平成 30 年度で 95 万円であり、平成 22 年度の 120 万円と比較しても使用料収入は減少傾向にある。市民交流センター全体でみるとプールの利用者が年間のべ 12 万人と多いため、プールの利用者をさらに増やすことに力を入れている。

年度	H26	H27	H28	H29	H30
陸上競技場 利用者数 (人)	15,576	16,677	18,323	17,431	15,525

《所 感》

淡路島には 3 つのサッカー場、2 つの野球場、その他多目的グラウンドを持つ広大な淡路佐野運動公園や 2 つの天然芝サッカーグラウンド、1 つの多目的グラウンド、体育館を持つアスパ五色など、球技場はたくさんあるが、陸上競技場は少なく公認記録に認定される第 4 種陸上競技場は洲本市の市民交流センター陸上競技場のみである。



陸上競技場を実際に見学させていただいたが、走路とインフィールドは土であり所々でこぼこしているのが現状である。伺ったところ、淡路島における陸上競技大会は全てこの競技場で行われているそうだが、サッカー競技は淡路佐野運動公園やアスパ五色で行われているとのことである。この土の走路で記録を認定される子どもたちにとってこの環境が満足なものであるかといわれればそうではないというのが本音であるようだ。

個人的には淡路島内にも全天候型舗装のなされた陸上競技場で子どもたちに思いきり走ってほしいという思いがある。県へ補助申請を出されているということであるが、他の2市との連携がどの程度とられているのかは不明であり、今後の行く末を見守っていきたい。



様式第4号（第9条関係）

令和元年11月12日

小野市議会議長 様

派遣議員 喜始 真吾

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日

令和元年10月30日（水）～11月1日（金） 3日間

2 派遣議員

喜始真吾 前田光教 岡嶋正昭 久後淳司 河島三奈
藤原貴希 高坂純子 小林千津子 村本洋子 川名善三

3 派遣先

- ・高知市布師田 3992-2
高知ぢばさんセンター
- ・洲本市宇原 1788-1
市民交流センター陸上競技場

4 内容

- ・全国市議会議長会研究フォーラムin高知
- ・全天候型陸上競技場の整備について

5 所感

別紙のとおり

研修要旨



大会テーマ：議会改革のための船中八策

第1日目 基調講演

現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性 ：中島岳志氏



1. 政治のマトリクス

政治のマトリクスとしてY軸を配分（お金）をめぐる軸、X軸を価値（リベラル vs パターナル）をめぐる軸として自民党の50年を解説された。田中角栄から大平正芳、小泉純一郎、安倍晋三まで各歴代の首相のそれぞれの特徴と政治について詳細に解説、特に個人的にも好きな大平正芳は保守本流であり、「政治は60点でなければいけない」という言葉を残している。

2. ラディカルデモクラシーとポピュリズム

・物語の設定の重要性

2017年の立憲民主党フィーバー →2018年以降支持率急落（新たな物語の欠如） →2019年のれいわ新撰組フィーバー

・ラディカルデモクラシー（市民参加型民主主義）

- ①熟議デモクラシー
- ②闘技デモクラシー

3. リベラル（自由主義：穏健な革新の立場をとるさま）の逆説

「寛容」としてのリベラル

- ・「異なる他者と如何に共生するのか？」という問い
- 個人の価値の領域には土足で踏み込まない
- ・「消極的自由」（～からの自由）と「積極的自由」（～への自由）
- 自由のパラドクス（逆説：理論と想定される結論の間に齟齬がある理論）

4. 保守とは何か？

カール・マンハイム『保守主義的思考』

- ・「伝統主義」（自然的保守主義）と「保守主義」（近代的保守主義）
「われわれは、普遍的な人間の本性としての伝統主義と、ひとつの特殊な歴史的・近代的現象としての保守主義とを区別する。

エドモンド・バーク『フランス革命についての省察』

- ・フランス革命に反映された人間観への不信…「裸の理性」への懐疑
- ・懐疑主義的人間観
 - ・過謬（あやまち）的存在としての人間
 - ・真に理智的な人間は、理智の限界を理智的に把握する
→人間及び人間社会の完成不可能性
 - ・個人の理性を超えた存在…集团的経験知、良識、伝統、慣習、超越的存在…
 - ・設計主義的合理主義への批判
- ・「復古」「反動」「進歩」への懐疑…社会は完成しない
- ・漸進主義
 - 保守するための改革
 - ・「ニーバーの祈り」
 - ・「神よ、変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ」
 - ・私たちの現在は、膨大な過去の蓄積・知的財産の上に成立している
→改革とは、過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整
 - ・成文憲法の存在しないイギリスの立憲主義
 - 死者の立憲主義

☆まとめ

保守のエッセンス＝政治は永遠のグラジュアル（微調整）である。

所 感

大変奥の深い講義だったが、われわれ末端の自治体においても考え方は同様であり、時代に応じて取り組み方を変えていきながら（微調整しながら）住民のニーズに応じていくことである。

【パネルディスカッション】

「議会活性化のための船中八策」



いま、世論は厳しい。いまだに『自治の主役』の自覚に欠ける議員が存在しているという「議会不信」が根強くあるのは否定しがたい事実である。

全国津々浦々で、選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるのも、議会に向けられた冷ややかな視線の表れに見える。

こうした世論を踏まえつつ、このフォーラムを、活力があり、質の高い議会を実現してゆくための具体策を考える機会にしたい。

・地方議会3つの悩み

- ①なり手不足
- ②女性議員ゼロ
- ③3ない議会

「議案への議員個人の賛否を公開しない」
「首長の提出した議案を修正・否決しない」
「議員提案の政策条例を制定していない」

1. 市議会についての現状認識

改革への取り組み

- ・議会基本条例制定→60.8%
- ・議会報告会の開催→53.7%

指摘される問題点

- ・投票率の低下 →議会への無関心

- ・無投票当選の増加 → なり手不足
- ・議員構成の偏り → 女性、若者の参加
- ・政務活動費の不正使用等 → 議員の不祥事

☆市民へのリスペクト（敬意） → 日々の努力が伝わっていない

2. 自治体議会をめぐる状況変化

市町村合併の進展

- ・議員数の減少

議会運営の弾力化

- ・議会活動についての厳格な定義
- ・議会運営についての細部にわたる規制

3. 議会基本条例

議会の現状を認識して、議員同士が議論のうえ、条例をまとめることの重要性

4. 今後の自治体議会のあり方

☆「多様な人材の市議会への参画促進に関する決議」（全国市議会議長会第95回総会）

- ・中長期的な視点で街の目指す方向を議論 → 人口減を前提に！
- ・議会運営 → 決算審査の工夫、休日・夜間議会
- ・ガチンコ会議を多様な人材で実施
- ・経験の機会を提供
- ・議員の日常活動
- ・地方自治法96条を有効活用する（議決権）

☆中長期的な制度課題

- ・多様な自治制度 → 理事会型 議会一支配人型等
- ・選挙制度の見直し → 選挙区制 連記制 選挙運動

☆検討すべき事項

- ・地方選挙の統一 → 地方自治の日
- ・兼職・兼業規制の弾力化
- ・労働法制の見直し → 休暇 勤務時間 休職等
- ・議員の厚生年金への加入

5. 未来を考える会議での印象的な言葉

- ・永遠のβ版 = トライ&エラー促進
- ・透明化・オープン化
- ・自前主義の脱出
- ・内外問わず「組むことで問題解決」

【課題討議】

「議会活性化のための船中八策」



☆地方議会の実態を探るアンケート調査結果（朝日新聞：全国1788議会）

【女性議員】

- ・全体の約2割が「女性ゼロ」ただし、市議会は36議会（4.4%）

【なり手不足】

- ・216議会（27%）が「課題になっている」

【報酬】

- ・この4年間で400議会が増額している、減額は49議会。政令指定都市を除く市議会と特別区では166議会が増額。

【議会基本条例】

- ・制定していると答えた市議会は519（63.7%）、町村議会なども含めた全議会での48.3%を大きく上回った。「検討中で、近く制定予定」の市議会も17（2%）で、基本条例の標準装備化が進んでいる。

【3ない議会】

1. 「議案への議員個人の賛否を公開しない」
2. 「首長の提出した議案を修正・否決しない」
3. 「議員提案の政策条例を制定していない」
 - ・2011年調査では653議会、2015年調査では409議会（43%）、今年（2017年）は304議会（36%）と、年々減少傾向にあるが、まだ各地にある。市議会だけでは今年（2017年）は74議会（9.1%）あるべき議会像を確実に実践していくには3点とも「NO」と答える必要がある、つまり「3ある議会」になるべき。

☆議会の意思を可視化していくことが必要。

★上越市議会：議員を目指しやすい環境整備への提言より

- ①議会傍聴の改革・活性化
- ②模擬議会、議会体験学習の実施
- ③意見交換会の改革

④広報 PR の充実

⑤選挙マニュアルの作成

⑥議員報酬の適正化

⑦女性フォーラムの開催

☆「市民に関心をもってもらい、理解してもらい」「女性へのアプローチ」といった観点で、早急に取り組むべき7点。

・見える議会・魅せる議会は、住民協働力、行政との対峙力、立法力、情報収集発信力

★鎌倉市議会：女性議員の現状の視点

【顕在化した課題】

- ・会議規則→出産が欠席事由として規定されていない、期間の明記もない。
- ・会議の運営→多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮がない。
行政職員への影響

【現在の潮流】

- ・女性活躍推進法施行→豊かで活力ある社会の実現
- ・政治分野における男女共同参画推進法の施行→家庭生活の円滑かつ継続的な両立

【環境整備に向けて】

1. 出産に伴う議会の欠席に関する規定について
取得期間及び運用についての考え方を明示
2. 子供の看護休暇に関する規定の整備
3. 配偶者出産休暇の取得
4. IPU「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」に則った、議会における仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備または改善

★周南市議会の事例報告

【議会改革の歩み】

平成16年の出直し選挙後、議会解散を教訓として議会改革に積極的に取り組んだ。

目標：「市民により開かれた議会」

○議会活動への市民参画を促す

○市議会に関心をもってもらい

キーワード：「公開」と「対話」

- ・議会改革特別委員会の設置（平成16年7月から1年間）から平成30年2月までさまざまな項目について改善、新設を実施。

所 感

今回のフォーラムは、近年の地方議会の最大の課題である「なり手不足」や、「3ない議会」といったことについて掘り下げた議論が展開され、意義のあるフォーラムだった。

小野市議会も同様の現状にあることを認識し、議会の活性化に尽力しなければならない。

特に感じたことは、「議会基本条例」についてである。策定している市議会が60%を超えている状況の中、やはり策定に向けたアクションを起こす時期が来ているのではないかと思う。

また、一般質問や政策提案は「立法力」が必要で、平素から研修会等、自己研鑽に励み、レベルアップに努めたい。

【洲本市市民交流センター】

★「陸上競技場」の施設概要

- | | |
|-----------|-----------------------|
| (1) 名 称 | 洲本市市民交流センター陸上競技場 |
| (2) 所 在 地 | 洲本市宇原 1807 番地 |
| (3) 敷地面積 | 22,001 m ² |
| (4) 開設年月 | 昭和 43 年 10 月 |
| (5) 開場時間 | 午前 9 時から日没まで |
| (6) 仕 様 | 4 種公認陸上競技場 |
- ・トラック一周 400m×8 コース
 - ・走り幅跳び、走り高跳び等のフィールド競技を行う場
所には全天候型の舗装を施工
 - ・管理棟（管理室、シャワー室、更衣室等）
倉庫（陸上競技備品の収納）



- ・淡路島内で唯一の公認陸上競技場（整備後 50 年が経過）
- ・センター全体で、年間 12 万人が利用

- ・平成 22 年から指定管理者制度を導入
- ・利用状況は、過去 5 年間は約 15,000 人～18,000 人で推移している。
- ・収入は昨年度は約 95 万円



☆課 題

- ・駐車スペースが少ない。
- ・アース走路なので、雨天等ですぐに凸凹になる。
- ・5 年ごとに公認の更新のため、3,000 万円の支出。
※全天候型に改修するには数億円かかる。

所 感

当市は、全天候型の 400m トラックの陸上競技場が来年春に完成するが、イニシャルコストは高くつくものの、中長期的には効率的と感じられる。
ただ、やはり本部席とちょっとした観客席があればと思う。

令和 元 年 11 月 5 日

小野市議会議長 川名 善三 様

派遣議員 久 後 淳 司 ⑩

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日 令和 元 年 10 月 30 日 (水) ～令和 元 年 11 月 1 日 (金)

2 派遣議員

- ・前田 光教・岡嶋 正昭・小林 千津子・高坂 純子・河島 三奈
- ・喜始 真吾・藤原 貴希・川名 善三・村本 洋子・久後 淳司

3 派遣先及び内容

- (1) 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知
高知ちばさんセンター(高知市布師田)
- (2) 兵庫県洲本市 (人口：約4万4千人、面積：182.38㎡)
全天候型陸上競技場の整備について

4 内 容

【第1日】

全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

《項 目》

第1部：基調講演

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

第2部：パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

《内 容》

【第1部】

基調講演：「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

講演者：中島岳志氏（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

【政治学上の政治の仕事】

大きく分ければ2つある

- ① お金をめぐる仕事
- ② 価値をめぐる仕事

【政治のマトリクス】

					縦軸：お金				
					横軸：価値				
					(社会対応⇒セーフティネット強化)				
					リスクの社会化				
	キリスト教の対立								
	↓								
	ヨーロッパの30年戦争が元⇒ (寛容⇒自由主義として発展)	リベラル		II		I		パターナル	(父権的⇒強い権限)
				III		IV			
					リスクの個人化				
					(個人対応⇒自己責任)				

- ・今の自民党体制はIVに分類される
- ・できる限り民間に委託できるものは渡していく
- ・そうするとリスクの個人化が進み小さな政府になる
- ・日本は世界的に見て非常に小さな政府
- ・災害に弱くなってしまう

【ラディカルデモクラシー】

ラディカルデモクラシーとは、新自由主義（官から民へ）

⇒熱しやすく冷めやすい特徴がある

① 熟議デモクラシー（直接かかわる）

⇒例：タウンミーティング、グループワーク等⇒小さな声を反映

② 闘技デモクラシー（れいわ新選組）

⇒対抗軸をひく⇒対立を見せる⇒感情を動かす

【保守とは何か？】

○フランス革命に異議申し立てした考えが保守

○エドモンド・パーク「フランス革命についての省察」⇒フランス革命について批判的

- ・フランス革命は理想的な設計図⇒設計主義的合理主義への批判
- ・フランス革命している人達に人間感がない⇒人間の理性はパーフェクトか？
➡人は間違い易い、だからこそ人に聞きながら合意形成を諮っていく必要性
- ・集団的経験値、良識、伝統、慣習・・・⇒受け止める必要性
- ・社会は完成しない⇒精神を受け継ぎ変えていく
- ・微調整（グラジュアル）が重要

「改革」とは、過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整

【第2部】

パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

パネリスト：高部正男氏（市町村職員中央研究所学長）

横田響子氏（株式会社コラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員教授）

古川康造氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋 剛氏（高知市議会議長）

【統一地方選挙の問題】

- ① 投票率の低下
- ② 無投票再選（なり手不足）
- ③ 議員層のかたより（女性・若者少ない）

【議員の問題】

- ① 何をしているのか見えない
- ② 追認機関になっている（形式的）
- ③ 議会改革は広がっている（6割以上の自治体で基本条例制定）

【議会に必要なこと】

- ① 20年後の住民は幸せか
- ② 数字（EBPM）とともにPDCAは
- ③ 若手・女性の参加は

【高松市の事例】

中心地の空洞化⇒地域の活性化には議会の協力が必要（ローカリズム）
議会改革は必要か？⇒議員へのリスペクトも大切

【議会改革のアイデア】

- ① 投票率の低下⇒選挙区制の検討
- ② なり手不足⇒労働法制の見直し
- ③ 中長期視点で議論（人口減を前提に）
- ④ ガチンコ会議
- ⑤ 経験の機会提供
- ⑥ 広報の仕方を変えていく

《所 感》

基調講演では、今まであまり深く考察したことのなかった、そもそも保守とは、あるいはリベラルとはというルーツを遡って知る機会となったので貴重な講演でした。また古くからの自民党の思想の流れや、現安部政権のマトリクス^①の位置はIVにある分析結果となっているなど、体系的に説明されていて理解しやすかったです。第2部のパネルディスカッションでは、それぞれの立場から、議員や議会にとっての問題点や改善案を提示され、耳の痛い部分もありながら、しかし素直に受け止めるべきところもあると感じました。第1部の基調講演の内容は知識として、第2部のパネルディスカッションの内容は身近に感じ、小野市議会にとっても参考にすべき点があると感じました。

【第2日】

全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

《項 目》

第4部：課題討議

「議会活性化のための船中八策」

《内 容》

パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター：坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

パネリスト：滝沢 一成氏（上越市議会議長）

久坂くにえ氏（鎌倉市議会議長）

小林 雄二氏（周南市議会議長）

【上越市議会】

<市議を目指すことを阻害する現状の要因把握>

市民の実際の声は・・・

「目指せない」ではなく「目指さない!」⇒議員に興味がなく、存在価値が感じられない

要因は3つ

- ① 心的要因（やりがいのなさ、おもしろくなさそう）
- ② 物理的要因（選挙費用への不安、報酬や身分保障への不安、ひとへの不安）
- ③ 環境的要因（地域の理解の壁、家族の理解の壁、女性特有の壁）

「対策案」

- ① 市民との議会の距離を縮める
 - ・議会傍聴の改革・活性化
 - ・模擬議会、議会体験学習の実施
 - ・意見交換会の改革
 - ・広報PRの充実
 - ・土日、夜間、出張議会の開催
 - ・インターン制度、サポーター制度・・・等
- ② 選挙の困難さの解決
 - ・選挙マニュアルの作成
 - ・公職選挙法改善を国に求める
- ③ 物理的課題の解決
 - ・議員報酬の適正化
 - ・社会保障の充実
 - ・政務活動費の見直し・・・等
- ④ 取り巻く環境の解決
 - ・地域環境の整備
 - ・人材育成
- ⑤ 女性特有の壁の打破
 - ・意識改革、啓発活動
 - ・地域活動の連携
 - ・バックアップ体制の整備
 - ・クオータ制度の検討

「まとめ」

議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力

【鎌倉市議会】

「顕在化した課題」

- ・ 出産が会議規則の欠席事由として規定されていない
- ・ 会議の運営に、多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮がない

「現在の潮流」

- ・ 女性活躍推進法施行
- ・ 政治分野における男女共同参画推進法の施行

「環境整備にむけて」

- ・ 出産に伴う議会の欠席に関する規定について
- ・ 子の看護休暇に関する規定の整備
- ・ 配偶者出産休暇の取得
- ・ I P U（ジェンダーに配慮した議会のための行動計画）に則った、議会におけるインフラ整備

「今後の課題」

- ・ 議員の法的位置づけが明確でない
- ・ 議員が法律に守られていない⇒きちんと整備し、議会の価値を高める必要性

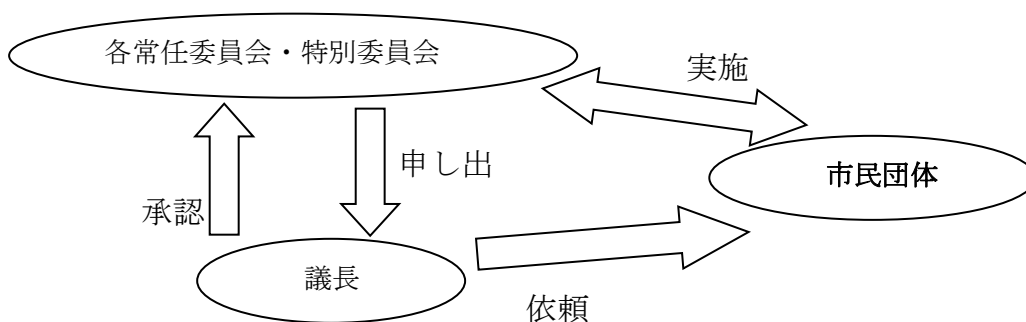
【周南市議会】

「議会改革」

- ・ 政治倫理条例の全部改正（平成 28 年 6 月）⇒全議員に資産報告書の提出義務
- ・ 政務活動費収支報告書等をすべてホームページで公開（平成 29 年 5 月～）
- ・ スマートフォンやタブレット端末でのインターネット中継スタート（平成 29 年 5 月～）

※基本条例にこだわらず実を上げていく

「委員会懇談会（ミニコン）」⇒平成 17 年 8 月からスタート



<目的>

- ① 市民と議会（議員）が懇談することにより、市民の自治意識の高揚を図り、議会においては市民が参画する機会を確保し、市民の声を議会活動に生かす
- ② 委員会における議案の審査や所管事務調査等に生かす

<開催形態>

- ・議会運営委員会、常任委員会及び特別委員会において開催

<開催方法>

- ・座長は委員長、原則 2 時間以内、会議は公開、会議録は要点筆記で公開

<開催実績>

- ・これまで 17 回

【議会改革】

「上越市議会」

- ・委員会資料が詳細に作られている⇒情報公開の徹底

「鎌倉市議会」

- ・予算原案に対する減額修正
- ・超党派の視察、政策法務研究会
- ・所管事務調査の積極的实施

「周南市議会」

- ・所管事務調査の積極的活用
- ・100 条委員会の開催

【住民の声をどう集めているか】

「上越市議会」

- ・議会モニター制度⇒住民 500 人にアンケート送付
- ・中学生議会

「鎌倉市議会」

- ・議会報告会、意見聴取会⇒各常任委員会でまとめ市長へ政策提言
- ・市民アンケート
- ・請願、陳情は同等の扱い

「周南市議会」

- ・委員会懇談会（ミニコン）

《所 感》

フォーラムの 2 日目は、メンバーを代えて引き続きのパネルディスカッションだったが、各市議会が抱える問題は共通の問題も多く、それぞれが議会改革として尽力されている姿が伺えた。いかに市民の方々に議会活動・議員活動を知ってもらうか、どのように発信すればいいか、当局にどのように声を届けていくかなど小野市議会としても共通の部分が多く感じられた。今回報告書としてまとめた中で、議会内部に目を向けて改革していくべき問題と、議会外部に目を向けて改革していくべき問題を、しっかりと区別した上で、「市民の方々にとってどうあるべきか」を常に念頭に検討していかなければならないと考えます。

【第3日】

兵庫県洲本市

人口：約4万4千人、面積：182.38㎡

《項目》

全天候型陸上競技場の整備について

《内容》

＜全天候型陸上競技場＞

【洲本市市民交流センター陸上競技場】

- ・敷地面積：22,001㎡
- ・開場時間：午前9時から日没まで
- ・仕様：4種公認陸上競技場（トラック1周400メートルが8コース）
走り幅跳び、走り高跳び等のフィールドは全天候型舗装

【現状】

- ・昭和43年10月に県の整備により完成
- ・洲本市の陸上競技場は「市民交流センター」にあり、淡路島で唯一の公認陸上競技場となっている
- ・平成16年に兵庫県から洲本市へ移管
- ・平成22年から指定管理者制度で「株式会社オーエンス」が運営



【課題】

- ・50年を経過し老朽化が進んでいる
- ・駐車場のスペースが不足している
- ・利用者数の減少

- ・トラックが土の仕様
- ・5年に1度陸連の公認を受けるために毎回3,000万円程度必要
(競技ルール改正等による改修)

【将来に向けて】

- ・全天候型陸上競技場を淡路島に整備したい

《所 感》

淡路島では、唯一の公認陸上競技場ではありますが、50年を経過していることや駐車場の確保など課題が山積しており、また公認としては全天候型トラックが増加している中、いまだに土というのもアスリート育成としても問題であると認識されていました。ただし整備となりますと、イニシャルコスト面、ランニングコスト面、洲本市で現競技場での建替なのか、新たな場所で建設するのか等、3市での協議だけでなく県との協議も必要であり、少しずつ進めていくしかないのかなという印象でした。小野市は先行して国の防衛事業等活用しながら来春オープンとなりますが、青少年の健全育成だけでなく、健康福祉の面からも、高齢者の方々を含め、あらゆる世代の方々にとって、スポーツのできる場所というのは重要でありますので、少しずつでも進捗されることを願っています。

令和1年11月15日

小野市議会議長 川名善三 様

派遣議員 河島三奈 印

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日

令和元年10月30日（水）～11月1日（金）

2 派遣議員

前田光教議員、岡嶋正昭議員、小林千津子議員、高坂純子議員
河島三奈、久後淳司議員、川名善三議員、村本洋子議員
喜始真吾議員、藤原貴希議員

3 派遣先

全国市議会議長会研究フォーラム in 高知
高知県高知市高知ちばさんセンター
兵庫県洲本市
全天候型陸上競技場の整備について

4 内容

1 日目

第1部 基調講演

「現代政治のマトリクス～リベラル保守という可能性」

東京工業大学リベラルアーツ兼研究教育院教授 中島岳志 氏

第2部 パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる 氏 朝日新聞論説委員
パネリスト

高部正男 氏 市町村職員中央研修所学長
横田響子 氏 (株) コラボラボ代表取締役/
お茶の水女子大学客員准教授
古川康造 氏 高松丸亀町商店街振興組合理事長
田鍋 剛 氏 高知市議会議長

2 日目

第3部 課題討議

コーディネーター 坪井ゆづる 氏 (1日目と同じ)

事例紹介者 滝沢一成 氏 上越市議会議員
久坂くにえ 氏 鎌倉市議会議長
小林雄二 氏 周南市議会議長

<要旨>

1. 基調講演

①政治のマトリクス

リスクの社会化

II 大平正芳 リベラル	I 田中角栄 パターナル
III 小泉純一郎	IV 安倍晋三

リスクの個人化

政権与党の歴史を総理大臣、またその近しい人の人柄などを分析した上記の表の上下が組むならわかるが、ナナメと組むと理解できない

自(IV)と公明(II)の連立が長期にわたり継続しているのは非常に興味深い、など。

②ラディカルデモクラシーとポピュリズム

ラディカルデモクラシーとは、市民が政治に直接口を出す参加型民主主義のことであり、これは一様に熱しやすく冷めやすい気質を持つ。

2017年の立憲民主党のフィーバーはまさにこれである。その後に台頭したれいわ新選組の山本太郎の手法と立憲民主党の枝野幸男の手法はわかりやすい、①闘技デモクラシーと②熟議デモクラシーであった。

①は対抗軸、対立軸を明確化し争っていくこと、に対して①はタウンミーティングやグループワークの意見を政治に反映させていくことである。熟議は個人と社会の間の層を厚くする。

2大政党が類似化してしまうと民主主義が弱化し、投票率の低下につながる。

③リベラルの逆襲

異なる他者といかに共生するのか、という問いに対して、個人の価値の領域には土足で踏み込まない。「寛容」としてのリベラルが大切。

④保守とは何か

保守の概念の原点はフランス革命への反対（懐疑）である。フランス革命に反映された人間への不信、「裸の理性」への懐疑。懐疑主義的人間観を自らにも当てはめねばならない。「大切なものを守るためには、変えていくことが大事。改革は一步一步進めること。

「永遠の微調整」が生き残りの基本であり、老舗の精神である。良識、慣習、伝統、歴史、の中にこそ理想の世界は見いだせる。大平正芳の言葉に「政治は60点でなければならない」との言葉がある、人間は間違えるもの、他者の声を聴き、合意形成を図って行くこと、自らを疑うことが保守の精神である。

2. パネルディスカッション

<①問題提起と②解決策>

高部氏は、①としてマスメディアの取り上げ方、低い投票率、無投票当選（なり手不足はイコールではない）、議員の偏りを挙げ、議員は何をしているのかが市民に分かりづらい、定例会は学芸会のように、議会改革の取り組みの不完全燃焼、議会のまとまり、などをあげ、それに②として、選挙制度の変革、労働法制の見直し、兼業規制の考え方、政策立案に限らない、監視、決済に力を注ぐこと、議会選出の監査は必要性、行政へのチェック機能をもっと強化し決算審査の重要性を高め、評価の仕方を考えなおすことが必要である。という意見を述べられた。

横田氏は、①として議員と一般人の接点は何か、女性を増やしていくのであれば、その説得の仕方に問題があるのでは、また、中長期のスパンで物事を考

えなければならない。やりっぱなしのままではなか、E B P MとともにP D C Aは機能しているか。②としては、女性を説得するならば何回もアプローチすること、イメージをわかりやすく伝えることが大切。女性議員を増やすには、候補者リストの数を増やし続けねばいけないと思うことなど、意見を述べられた。

古川氏は、①として拡散した都市部をコンパクト化しなければいけない。中心市街地から人が郊外に流れ、議会も郊外の分布になってしまっている、中心には人も票もないともなればますます空洞化は進む。議会には公費を使う判断や、地域の代表であり、また全体の利益を考えなければいけないということを踏まえると、地元選出の地元のためになる人になってもらいたい。

②としては、そもそも議会の改革は必要であるのか、昨今のニュースでも問題行動として議員が批判されることもあるが、市民からの議会への監視の強さや市民の軽視感情などには、自らが選んだ以上、議会に対する支えやリスペクトも必要である。また、男女の比率よりも地域密着が大切と感じる、との意見を述べられた。

田鍋氏は、高知市議会の議員は大半が専門議員であり、熱心に活動できているが、議員は何をしているという意見がやはり多い。②として議会だよりの発行、懇話会の開催、などの広報活動をしている。と述べられた。

3. 課題討議と事例発表「議会活性化のための船中八策」

上越市議会の取り組みとして、ア) 行政監視機能の充実、委員会の資料や事業資料がとても詳細であるこれはネット公開している。イ) 住民の声をどの様に聞いているかについては、各層(年代、性別など)への意見交換会の開催、これは各自でテーマを決めて、委員会単位で開催、一回に2時間程度で過去二年間に24回開催している。また議会モニター30名を委嘱し感想を頂き、議会だよりアンケートの実施、小・中学生の模擬議会の開催などを行っている。また「議員を目指しやすい環境整備」への5つの大項目と19の小項目で構成する提言を答申した。

鎌倉市議会からは、「女性議員の現状の視点」というテーマで意見が発表された。「出産」に関しての規定がなく、会議の運営自体にも多様な背景をもつ議員への配慮はない。長時間の拘束など行政職員への影響も大きかった。

女性がリーダーシップをとるに必要なことは、できるだけ話を聞き、合意形成をしていくこと。また今後政治の世界へ女性を送り出すには、今の姿にやりがいを見出してもらえらるような活動をすること、そしてそれを伝えることが大切で、また誘いをあきらめないこと。また、出産に伴う議会の欠席規定などの期間や運用についての考え方を明示すること、産前産後の休息期間が労基法にのっとって整備されるように、また子供の看護休暇や、妻の出産直後の夫の出

産休暇の取り扱いなど今後しっかり整備していかないと、若手の女性は政治の世界に入られない。地方議会は法律で守られていないが、会議規則は自らで変えられる。などの発表があった。

周南市議会では、まず初めに議会基本条例は制定しないとの発言があった。理由は形にこだわるのではなく取り組んできたことをつらぬくべきであり、必要ない、また機動性と柔軟性に欠ける。とのことだった。どのように市民の声を聴いているのかについては市民との委員会懇談会をもうけている。また議員の資産公開をしており、増えた場合には申告、減った場合にはわからないが、あえて内情をさらすことをしている。女性議員を増やす取り組みは今のところ具体的なものはない状況であることを、述べられていた。

4. まとめ、船中八策のごとく・・・

1. 行政監視機能の充実・強化
2. 次世代を見据えた視点（10年～20年後）
3. E B P M（エビデンス、ベース、ポリシー、メイキング）
データを押さえた具体性（証拠に基づく政策立案）
4. 多様性
5. 自治法 96 条 1 項 2 項の活用（議会からのアプローチ）
6. 労基法の規制緩和
7. 情報公開の徹底
8. 合意形成の重要性（議員間討議）

女性や若者の議会参加を促すためには、根本的な問題がある。

日本の社会構造しかり、「生きるのに精いっぱい」であり、また結婚によって生じる「キャリアの断絶」が少なくない。

市長与党などありえない、「議会がちからを持つこと」で二元代表制を健全に維持し、政治に対する無関心をなくしていくことができるかもしれない。

5. 所 感

第1部では、保守とリベラルというテーマで、実際の政治の情勢や人物などを例に挙げ講演されていてとても聞きやすく納得できた。自らを疑う、他者の声を聴く。私も心がけてきたつもりであるが、自分の考えを懐疑的に観察、検証できているかと考えると、まだまだできていないと思う。新しいことを学びながら、それをどの様な形で取り込めば、よりよい自分、また、環境になるのか常に考えながら、これからも励んでいきたいと思った。

第2部では、古川氏の意見に少し救われた気がした。どんなによそで議員の不祥事が起ころうと、全部をひとくくりにして同じように考える人ばかりではないのだということ、リスペクトの気持ちをもって、接しなければならない。

自分たちが選んだ人なのだから。という言葉に、自らも、相対する方々すべてにリスペクトの気持ちをもって向き合っていきたいと思った。

第3部では、小野市以外の議会のことを知れてよかったと思う。特に鎌倉市議会の長時間すぎる議事日程など、かなりのインパクトを受けた。議員が庁舎に居残れば、それに付き合わなければいけない職員への影響を忘れてはいけないだろうと思った。

最後に、今回のフォーラムはとても内容的に充実していたと感じた。「活性化」「議会改革」という言葉はあまり好まないけれどほかに言いようがないと思うので、仕方ない。各自治体のお話を聞かせて頂き、その土地柄によって全く変わる「市議会」というものを、より誠実に、評価高く、作り上げていくことができるように、私も日々精進していこうと決意を新たにした。

3日目

兵庫県洲本市 全天候型陸上競技場の整備について

1・2・3 同上

4. 内 容

市民交流センター内にて座学、説明を受けその後現地を視察

<要旨>

現陸上競技場は、淡路島唯一の競技場で利用価値はある。競技場の整備は陸上協会からも再三の要望がでていることと、現状のグラウンドは土なので、雨が降った後などコンディションが最悪で競技の成績にも影響がでている。淡路島は陸上競技で有名な土地なので全天候型のグラウンドが早急に求められる。

<課題>

上記の内容に加え、第4種認定を継続維持していくためには、5年に一度の認定更新の時期に変わってゆく基準を見たすために3000万円程度の経費がかかる。また現在のグラウンドは駐車場が狭いこと、淡路島には軌道がないので、車が必須でありそれに伴い駐車場も必要である。

5. 所 感

全天候型トラックの陸上競技場は小野市にも整備されており、2020年4月に供用開始を迎える。対して、淡路の競技場は、現在整備の要望を淡路島3市の共同提案として兵庫県知事へ要望書を手渡ししておられ、これからも活動を続けていかれるということなので、動向を注視していきたいと思う。

令和 元年 11 月 15 日

小野市議会議長 川名善三 様

派遣議員 高坂純子 ⑩

議員派遣報告書

先般、実施しました 議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日 令和 元年 10 月 30 日（水）～令和 元年 11 月 1 日（金）

2 派遣メンバー

（議長）川名善三・（副議長）久後淳司
岡嶋正昭・小林千津子・前田光教・高坂純子
河島三奈・喜始真吾・藤原貴希・村本洋子



3 派遣先及び調査内容

- （1）10 月 30 日～31 日 高知県高知市
第 14 回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知
- （2）11 月 1 日 兵庫県洲本市（人口：44,258 人・面積：182.38K㎡）
全天候型陸上競技場の整備について

【第1日】

《項目》

第14回全国市議会議長会研究フォーラム

第一部 基調講演 中島 岳志(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)現代政治のマトリクス～リベラル保守という可能性

第二部 パネルディスカッション

- ・コーディネーター 坪井ゆづる (朝日新聞論説委員)
- ・パネリスト 高部正男 (市町村職員中央研修所所長)
横田響子 (株) コラボラボ代表取締役
古川康造 (高松丸亀町商店街振興組合理事長)
田鍋 剛 (高知市議会議長)

《内容》

第一部 基調講演 中島 岳志(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)
現代政治のマトリクス～リベラル保守という可能性

1. 政治のマトリクス

① 配分をめぐる軸→Y 軸→セーフティネット強化(リスクの社会化)
VS 自己責任(リスクの個人化)

② 価値をめぐる軸→X 軸→リベラル VS パターナル

2. ラディカルデモクラシーとポピュリズム

※ラディカルデモクラシーとは直接的な政治のかかわり方

3. リベラルの逆襲

4. 保守とは何か

※何も考えないのは保守ではない。保守するための改革。大切な物を守るにも変えていかななくてはならない。

《所感》

メディアなどでも有名な中島先生の講演は大変興味深く聞かせて頂いた。正直難しかったが、一番記憶に残ったのは「政治は60点でなければならない。100点を取る政治は正解を押し付けている。自分達は間違いやすい人間だから、他人の話を聞いていかないとダメ」、「改革は1歩1歩やっていくもの=保守するための改革」、「落とすどころまで皆で話し合うことが大切」等だ。深い意味を持つ言葉からヒントがあるように思った。

第二部 パネルディスカッション 議会活性化のための船中八策

・コーディネーター 坪井ゆづる（朝日新聞論説委員）

・パネリスト

◎高部正男（市町村職員中央研修所所長）

○議会活性化のための船中八策

市議会についての現状確認

議会基本条例制定 60.8%だが作っただけで忘れたのでは意味が無い

低投票率・無投票当選・議員構成の隔たり・なり手不足の議論を

兼職・兼業の規制を考える・行政の監視機能が大事

決算時の審査をしっかりと行う

☆早急に検討すべき事項

地方選挙の統一・兼職兼業規制の弾力化

労働法制の見直し・厚生年金への加入

◎横田響子（(株) コラボラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授）

○議会活性化の船中八策

☆そもそも議会に必要なこと

人口減少を前提として議論して欲しい

20年後の住民は幸せか・やりっぱなしになっていないか

数字（EBPM）とともにPDCAはどうか・若手、女性の参加は

☆議会改革の具体的なアイデア

ガチンコ会議を多様な人材で実施

☆自己評価の仕方が男女で違う。口説き方（市議会議員に出馬しないかと言う時）は1回では無く何度も口説いて欲しい

◎古川康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

○高松丸亀まちづくり戦略

☆議員改革は必要なのかな？

市民の皆さんのリスペクト・しかるべき議員報酬・地域密着型ができている

◎田鍋 剛（高知市議会議長）

○高知市議会の概要

人口 328,283人 ※投票率 36.55%

・議員定数 34人（女性 5人）



平均年齢 58.6 歳 (33 歳～72 歳)

- ・期数別 1 期：7 人 2 期：3 人 3 期：3 人 4 期：11 人
5 期：4 人 6 期：4 人 7 期：1 人 8 期：1 人
- ・議員報酬 議長 678,000 円 副議長 615,000 円 議員 585,000 円
- ・議会構成 (委員会)
議長は常任委員会に所属しないため、経済文教は 8 人、予算決算は 33 人で運営
- ・主な議会改革の取り組み
 - H6.3 委員会を原則公開に (委員会条例改正)
 - H13.7 議会事務局に法務担当職員を配置
 - H22.6 一問一答方式を導入
 - H26.4 議会独自の行政評価を開始
 - H27.6 議会だよりのスマホ向けアプリ配信を開始

☆ほとんどが専業議員 女性議員の減少

《所 感》

「議員はいったい何をしているのかよくわからない」「審議の低下は学芸会のようだ」といった世間の声があると説明された。

議会改革と大きなことではなく「議会活性化」という形でもっと「見える議会」にしていくための工夫を模索しているパネルディスカッションのように感じた。時間配分が上手くいかずにあまり発言できなかったパネラーがあったのは残念だった。(終了後、タイムキーパー導入案をお伝えした。)

【第 2 日】

《項 目》

課題討議

「議会活性化のための船中八策」

- ・コーディネーター 坪井ゆづる (朝日新聞論説委員)
- ・事例報告者 滝沢 一成 (上越市議会議員)
久坂くにえ (鎌倉市議会議長)
小林 雄二 (周南市議会議長)

《内 容》

◎滝沢 一成 (上越市議会議員)

○上越市議会市議を目指しやすい環境整備への提言

☆上越市議会議員定数 32人（女性0人）（R1.9）平均年齢63歳

H28年4月の市議会議員選挙立候補者数34人（定数32人）

（女性の出馬1名→当選したが県議選出馬で辞職）

当選当時、40歳未満の議員3人、地元の出馬見込み無く引退を見送った議員もいた。危機感から議長提案で議長の諮問機関として「市議を目指しやすい環境整備検討会」を設置。

『目的』

市民の声を市政に反映させる上で、男女を問わず市民の各年齢層の市議がいるのが望ましいが、現状は、子育て世代などの若者や女性の議員はわずかであるうえ、挑戦する動向も伺えない状況にある。そこで、市議を目指しやすい環境とは何か、その整備に向けて「市議を目指すことを阻害する」現状の要因など把握し、その改革案を策定すること。

『検討』

目指せないのだから、阻害要因を探し、取り除けばよい！という発想でスタートしたが、市民との意見交換会で間違いに気づく。

“目指せない”ではなく“目指さない”

なぜなら、議会に関心が無い→存在価値も感じられないもの（議員）に誰がなりたいと思うか＝**議会の見える化が第一 議会の魅力を見せ・魅せて**

☆ホワイトボード・ミーティング（議員間/市民意見交換会）

内容

なぜ若者や女性は市議会議員を目指さないのか/どんな阻害要因をなくせば出馬するか/市議会に求めること

開催

働く世代や子育て世代等に配慮し昼と夜の2回開催

提言書

諮問から1年後、議長に提出！

5つの大項目と19の小項目で構成する提言を答申

その中でも早急に取り組むべき7点

- ①議会傍聴の改革・活性化
- ②模擬議会・議会体験学習の実施
- ③意見交換会の改革
- ④広報PRの充実
- ⑤選挙マニュアルの作成
- ⑥議員報酬の適正化
- ⑦女性フォーラムの開催

☆見える議会・魅せる議会は

・住民協力・行政との対峙力・立法力・情報収集発信力の揃った議会

☆議会改革推進こそ議員を目指す人々を獲得する最大の力

◎久坂くにえ（鎌倉市議会議員）

○女性議員の現状の視点

☆顕在化した課題

- ・ 会議規則
出産が欠席事由として規定されていない、期間の明記もない
- ・ 会議の運営
多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮はない・行政職員への影響

☆37,500人の市町村議員の内150人が女性

☆環境整備に向けて

- ・ 出産に伴う議会の欠席に関する規定について取得期間及び運用についての考え方を明示
- ・ 子の看護休暇に関する規定の整備
- ・ 配偶者出産休暇の取得

◎会議規則は自ら変えられる！議員の位置づけをもっと明確に！法律で認められていない議員！

◎小林雄二（周南市議会議員）

○周南市議会事例報告

人口 約14万3千人 ※投票率53.35% 定数30名（女性3名）

平均年齢58歳（34歳～77歳）

30代：3名 40代：4名 50代：7名 60代：10名 70代：6名

☆周南市議会議会改革の歩み

合併により議員報酬の一本化で議員解散にまで至ったことで議会改革に取り組み、平成16年7月議員改革特別委員会を設置した。その後、議会大規模災害対応要綱の制定、決算審査における議会が行う行政評価の取り組みもスタートした。

行政監視機能の充実にも取り組んでいる。

- ・ 議員の資産公開・基本条例の制定なし

【議会活性化のための船中八策】坪井ゆづる

- ①行政監視機能をしましよ
- ②次世代を見据えた議論をしていかなければならない
- ③データーをきちっと踏まえた議論を行う
- ④多様性の確保をする工夫を
- ⑤96条を議会ですっかり把握
- ⑥情報公開
- ⑦労働法制を改める
- ⑧合意形成を作る 議員間討議を行う



《所 感》

女性議員を増やす、女性議員が出馬できるようにする。

パネラーからも必ず出てきたが、小野市議会では7名の女性議員がいる。議会が何か仕掛けたのではなく本人の意思が大きく左右していると思う。それには女性が発言しやすい環境を市全体で作っていくことだと思う。

2日間を通し他市の議会改革を学び、参考になるものを沢山得た。

「リーダーシップというと強く引っ張ることのように思われるが、できるだけ皆の話を聞き、丁寧にやらせて頂く。そういう立ち位置と考える」とても参考にさせて頂きたいコメントだった。

【第3日】 11月1日 兵庫県洲本市（人口：44,258人・面積：182.38K㎡）

《項 目》

全天候型陸上競技場の整備について

《内 容》

◎市民交流センター陸上競技場

○市民交流センター



年間利用人数 12万人

	本館（ホール、体育室、各会議室等）	プール	野球場	陸上競技場
開設年月	昭和53年10月	昭和63年10月	昭和42年12月	昭和43年10月
内容	体育館（2面） ホール（299席） 各会議室	25m×6コース 幼児プール	左右両翼90m センター115m	4種公認 400m×8コース 走り幅跳び、走り高跳び等の フィールド競技を行う場所は全天候型舗装

・陸上競技場は淡路島内で唯一の公認陸上競技場として運営。

※管理棟（管理室、シャワー室、更衣室等）※倉庫（陸上競技備品の収納）

・平成22年度より指定管理者制度導入

「オーエンス・淡路土建グループ（株）オーエンス平成22年度450万円の収入

○陸上競技場の利用状況

年 度	H26	H27	H28	H29	H30
利用者数	15,576 人	16,677 人	18,323 人	17,431 人	15,525 人

○陸上競技場の課題

- ・ 来年 2 月で公認が廃止になる。
- ・ 陸連のルールが変わるごとに直していくことになる。
- ・ トラック、フィールド舗装、ハンマー投げの囲い等々痛みが激しい。
- ・ 5 年ごとの修理に約 3,000 万円。
- ・ 淡路唯一の陸上競技場なのだが土なので県大会へ行くとフィールドの状況の違いから思うような成績が出ない。



《 所 感 》

本年 8 月 28 日に、兵庫県市議会議長会に要望書を提出されたと伺った。淡路 3 市がどのように協力され、今後の計画なども含め私たちにも情報の共有をお願いしたいところだ。

令和 1 年 11 月 14 日

小野市議会議長 川名善三 様

派遣議員 小林千津子 ㊟

議員派遣報告書

先般、実施しました 議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日 令和元年 10 月 30 日（水）～令和元年 11 月 1 日（金）

2 派遣メンバー

前田光教	岡嶋正昭	藤原貴希	喜始真吾	久後淳司
河島三奈	高坂純子	小林千津子	村本洋子	川名善三

3 派遣先及び調査内容

- (1) 全国市議会議長会研究フォーラム in 高知
高知ちばさんセンター
- (2) 全天候型陸上競技場の整備について
市民交流センター陸上競技場

【第1日】 10月30日（水） 13時00分～17時00分

13：00 開会式

13：20 第1部 基調講演

「現在政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

中島 岳志氏 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授

14：20 休憩

14：40 第2部 パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる氏 朝日新聞論説委員

パネリスト 高部 正男氏 市町村職員中央研修所学長

横田 響子氏 株式会社コラボラボ代表取締役

お茶の水女子大学客員准教授

古川 康造氏 高松丸亀町商店街振興組合理事長

田鍋 剛氏 高知市議会議長

16：40 次期開催地挨拶

【第2日】 10月31日（木） 9時00分～11時00分

9：00 第4部 課題討議

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる氏 朝日新聞論説委員

事例報告者 滝沢 一成氏 上越支議会議員

久坂くにえ氏 鎌倉市議会議長

小林 雄二氏 周南市議会議長

11：00 閉会式

4 調査結果

第1日

第1部 基調講演 中島 岳志氏

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

現在政治のマトリクスを現存の政治家を配し話されましたが、横文字が多く難解でした。『私達の現在は膨大な過去の蓄積・知的財産の上に成立している。「改革」とは過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整』と書かれています。政治とは自分と異なる意見を持つものにも耳を傾け一步一步微調整していくのだと悟りました。

第2部 パネルディスカッション 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆずる氏（朝日新聞論説委員）

「自治の主役」にふさわしく

議会は地方政治、自治の主役である。

たとえ首長に比べてスポットライトを浴びる機会は少なくても、予算や事業の採否などの最終決定権を握っているのは議会であり、地域の将来を左右する重大な使命を担っている。

当然、そのぶん責任は重い、今世論は実に厳しい、いまだに「自治の主役」の自覚に欠ける議員が存在している。選挙のたびに過去最低の投票率が相次いでいるのも議会に向けられた冷やかな視線のあらわれに見える。

こうした世論をふまえつつ、このフォーラムを、活力が有り質の高い議会を実現していくための具体策を考える機会にしたいと考える。

名付けて「議会活性化のための船中八策」

- ☆ 行政監視機能をどうやって高め成果をあげていくか
- ☆ 人口減少、外国人の増加、災害対応など地域の将来を見据えた議論を進めるための視点とは何か
- ☆ 候補者男女均等法のもとで「老老男男」の実態をどう変えられるか
- ☆ 成り手不足問題にどう対象するか
- ☆ 住民の関心を高めるには何をすべきか
との問題提起が有りました。

パネリスト 高部 正男氏 市町村職員中央研修所学長

1. 市議会についての現状認識

○市議会改革への取り組みの広がり

議会基本条例制定 60.8% 議会報告会の開催 53.7%

○自治体議会について指摘される問題点

投票率の低下 議会への無関心

無投票当選の増加 議員のなり手不足

議員構成の偏り 女性若者の参加

政務活動費の不正使用等 議員の不祥事

2. 自治体議会をめぐる状況変化

3. 議会基本条例

○議会の現状を認識して、議員同士が議論の上条例をまとめることの重要性

4. 今後の自治体議会のあり方

○多様な人材の市議会への参画促進に関する決議

パネリスト 横田 響子氏 株式会社コラボ代表取締役
お茶の水女子大学客員准教授

そもそも議会に必要なこと

1. 20年後の住民は幸せですか？
2. やりっぱなしになっていませんか？
3. 若手、女性の参画は？

議会改革の具体的なアイデア

1. 中長期視点で街の目指す方向を議論 人口減を前提に
2. ガチンコ会議を多様な人材で実施
3. 経験の機会提供

パネリスト 古川 康造氏 高松丸亀町商店街振興組合理事長

高松丸亀町まちづくり戦略

土地の所有と利用を分離した市中心部の土地の有効活用
新しい商店街のかたちを目指して

パネリスト 田鍋 剛氏 高知市議会議長

高知市議会の概要

議員定数 34人 内女性5人 平均年齢 58.6歳

主な議会改革の取り組み 平成以降 抜粋

- 6.3 委員会を原則公開に
- 10.12 執行機関が設置する附属機関に議員が委員として参加しない決議
- 19.9 政務調査費の使途の透明性を高める条例改正
- 22.6 一般質問に一問一答方式を導入 (21年6月定例会から試行)
- 25.7 インターネットによる本会議定例会の録画配信を開始
- 26.4 議会独自の行政評価を開始
- 29.9 政務活動費の領収書など関係書類を議会ホームページで公開
- 30.9 予算決算常任委員会を設置



第2日

第4部 課題討議

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる 朝日新聞論説委員
事例報告者 滝沢 一成 上越市議会議員
久坂くにえ 鎌倉市議会議長
小林 雄二 周南市議会議長

コーディネーター 坪井ゆづる 朝日新聞論説委員

データでみる地方議会

女性議員

全国の1788地方議会の2割、市議会に限れば36議会(4.4%)で女性0

なり手不足

一般市議会、特別区でも 216 議会 (27%) 課題となっている

報酬

400 議会で増額 減額 49 議会

議会基本条例

制定している 519 議会 (63.7%)

3 ない議会

1. 首長提案議案の否決、修正
2. 議員提案の政策条例の制定
3. 議員個人の賛否の公開

事例報告者 滝沢 一成氏 上越市議会議員

市議を目指しやすい環境整備への提言

市議を目指しやすい環境整備検討会

1. 設置 H 28 年 4 月市議会選挙 定員 32 人 立候補 34 人 女性 1 人
危機感から議長提案で検討会を設置
2. 目的 「市議を目指す事を阻害する」現状の要因など把握し、その改革案を策定する事
3. 検討 目指せないのではなく—もとより興味がない—やりがい全く感じられない
4. 市民との意見交換会
テーマ 「なぜ若者、女性は市議会議員を目指せないのか」
5. 提言書 諮問から 1 年後議長に提出
 - ・ 市民と議会の距離を縮める
 - ・ 選挙の困難さの解決
 - ・ 物理的課題の解決
 - ・ 取り巻く環境の解決
 - ・ 女性特有の壁の打破
6. 答申後前進したか
議員定数及び報酬等の有り方検討委員会
議会改革推進会議

7. まとめ

議会改革推進こそ議員を目指す人々を獲得する最大の力

事例報告者 久坂くにえ氏 鎌倉市議会議長

女性議員の現状の視点

潜在化した課題

- ・ 会議規則 出産が欠席事由として規定されていない
期間の明記もない
- ・ 会議の運営 多様なバックグラウンドを抱える議員の配慮はない
行政職員への影響

環境整備にむけて

- ・ 出産に伴う議会の欠席に関する規定
取得期間及び運用についての考え方明記
- ・ 子の看護休暇に関する規定の整備 ・ 配偶者出産休暇の取得

環境整備にむけて

- ・ 「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」に則った、議会における
仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備又は改善

事例報告者 小林 雄二氏 周南市議会議長

丹南市議員定数及び市議会議員一般選挙の状況

平成 28 年 5 月 定数 30 名 内女性 3 名 投票率 53.35%

議会改革の歩み

目標 市民により開かれた市議会

- ・ 議会活動への市民参画を促す
- ・ 市議会に関心を持ってもらう

キーワード 「公開」と「対話」

議会改革特別委員会の設置 1年間に15回の委員会開催

行政監視機能の充実 所管事務調査の積極的な活用

議会提案による政策条例の制定

市議会の情報公開

《所 感》

1 日目の基調講演と第 2 部のパネルディスカッションについては専門的な話題が多く感じましたが、2 日目の第 4 部については身近な事例報告が多く、当市と比較しながら聞かせて頂きました。今回はとくに女性議員に焦点を当てたとの、朝日新聞論説委員の坪井氏の問題提起の新聞記事には違和感が有りました。いまだにこんな事例もあるのかと思います。私も議員は男性の仕事と思いながらこの仕事に着きました、男女を問わずお互いを補いながら仕事が出来たらと思います。

最後にコーディネーター 坪井ゆづる氏の「議会活性化のための船中八策」

- 1.行政監視機能の充実
- 2.次世代に向けた視点
- 3.データを踏まえた議論
- 4.多様性の確保、尊重（若者、女性）
- 5.96 条活用
- 6.労働法制を見直す
- 7.情報公開の徹底
- 8.合議形成（議員間討議）と締めくくられました。

2 日間の高知県での全国市議会議長会研究フォーラム、当市と比較できることとできないことがあります、当市本来の質の高い市議会に成るよう襟を正して務めなくてはいけないと考えます。本年は大変中身の濃い勉強会でした。

【第 3 日】 11 月 1 日（金） 13 時 30 分～15 時 30 分

於 市民交流センター陸上競技場

全天候型陸上競技場の整備について

市民交流センターの概要

淡路島内で唯一の公認陸上競技場として運営

開設 本館 昭和 53 年 10 月 体育室（2 面）、ホール（299 席）、
各会議室

プール 昭和 63 年 10 月 25m×6 コース、幼児プール

野球場 昭和 42 年 12 月 左右両翼 90m、センター115m

陸上競技場 昭和 43 年 10 月

年間 12 万人利用 年間 95 万円収入

「陸上競技場」の施設内容

1. 名称 州本市市民交流センター陸上競技場
2. 所在地 州本市宇原 1807 番地
3. 敷地面積 22,001 m²
4. 開設年月 昭和 43 年 10 月
5. 開場時間 午前 9 時から日没まで

6. 仕様

4種公認陸上競技場

- ・トラック 1週 400m×8コース
- ・走り幅跳び、走り高跳び等のフィールド競技を行う場所には全天候型の舗装を施行
- ・管理棟（管理室、シャワー室、更衣室等）
倉庫（陸上競技備品の収納）

《所感》

市民交流センター陸上競技場は、小高い丘の上であり見晴らしの良い所でした。一部走り幅跳び、走り高跳び、砲丸投げ等のフィールド競技を行う場所は全天候型に舗装をされていましたが、トラック一周400m×8コースが舗装されていないため、他校に出かけての競争に遅れをとるので全天候型に施行してほしいとの要望でした。人口減少に伴い利用する生徒数も少なくなっているようでした。

当市においても大変良い競技場がオープンします。大いにPRをして利用して頂きたいと思います。



様式第4号（第9条関係）

令和1年11月7日

小野市議会議長 川名善三様

派遣議員 村本洋子 印

議員派遣報告書

先般、実施しました議員派遣について下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日

令和元年10月30日～11月1日

2 派遣議員

前田光教、岡嶋正昭、藤原貴希、喜始真吾、久後淳司、
河島三奈、高坂純子、小林千津子、川名善三、村本洋子

3 派遣先

(1) 10月30日（水）13時～17時

10月31日（木）9時～11時

全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

(2) 11月1日（金）13時30分～15時

兵庫県洲本市（人口：4万4千人、面積：182.38km²）

全天候型陸上競技場の整備について

4 内 容

(1) 全国市議会議長会研究フォーラム

大会テーマ 議会活性化のための船中八策



【基調講演】現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性

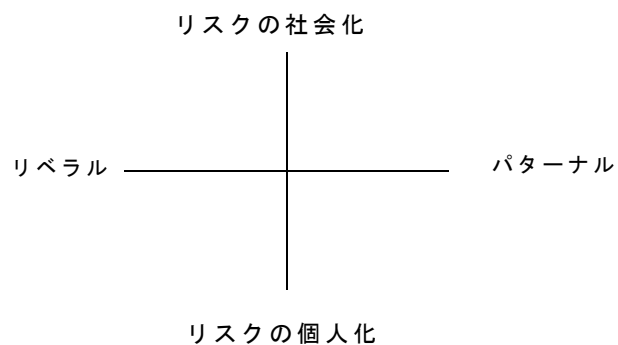
中島岳志氏

(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

1. 政治のマトリクス

① 配分をめぐる軸… Y 軸

② 価値をめぐる軸… X 軸



自民党の 50 年

①租税割合②GDP③公務員数…リスクの個人化が進んでいる。
希望の党はなぜ失敗したのか？

斜めと組むと何をやりたいのかわからなく、災害に弱い。

2.ラディカルデモクラシーとポピュリズム
物語の設定の重要性

- ①2017年10月の立憲民主党フィーバー
- ②2019年れいわ新撰組フィーバー

ラディカルデモクラシー

- ①熟議デモクラシー
- ②闘技デモクラシー

3.リベラルの逆説

寛容としてのリベラル

個人の価値の領域には土足で踏み込まない
自由のパラドクス

4.保守とは何か？

永遠の微調整、漸進的改革、大切なものを守るためには、変わらなくては
いけない。

【パネルディスカッション】

「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる氏（朝日新聞論説委員）

パネリスト

高部正男氏（市町村職員中央研修所学長）

横田響子氏（㈱コラボ代表取締役/お茶の水女子大学客員准教授）

古川康造氏（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋 剛氏（高知市議会議長）

市議会についての現状認識

議会改革への取り組み

議会基本条令制定 60.8% 議会報告会 53.7%

議会改革の出発点、議会の中で議論し、議会の中で解決

問題点

- | | |
|--------------|----------|
| ①投票率低下 | 議会への無関心 |
| ②無投票当選の増加 | 議員のなり手不足 |
| ③議員構成の偏り | 女性、若者の参加 |
| ④政務活動費の不正使用等 | 議員の不祥事 |

自治体議会をめぐる状況変化

- | | |
|----------|-------------------|
| 市町村合併の進展 | 市町村議員数の減少 |
| 議会運営の弾力化 | 議会活動についての厳格な定義 |
| | 議会運営についての細部にわたる規制 |

今後の自治体議会のあり方

- 多様な人材の市議会への参画促進
- 議会運営 休日・夜間会議・執行機関の出席
- 議員の日常活動

中長期的な制度課題

- 多様な自治制度
- 選挙制度の見直し

早急に検討すべき事項

- ①地方選挙の統一
- ②兼職・兼業規制の弾力化
- ③労働法制の見直し
- ④議員の厚生年金への加入

【課題討議】

議会活性化のための船中八策

- | | |
|----------|------------------|
| コーディネーター | 坪井ゆずる氏（朝日新聞論説委員） |
| 事例報告者 | 滝沢一成氏（上越市議会議員） |
| | 久坂くにえ氏（鎌倉市議会議長） |
| | 小林雄二氏（周南市議会議長） |

市議を目指しやすい環境整備

市民は目指せないのではなく、もとより興味がなく目指さないのだ。議会の魅力を見せて魅せて。

テーマを決めて、各層、各職業の方々との意見交換会。

議会モニター
女性フォーラム
行政との対峙力
立法力
議員間討議の活性化
議員の身分の明確化と改革

5 所 感

小野市は女性議員比率も高く、年齢構成もバランスがとれていて、女性と意識せず自由に意見が言えます。議会だよりも、市民の皆さまに読んで頂けるように工夫しています。しかしながら、投票率の低下、無関心など課題もあります。少子高齢化社会が進む中、他の市町村の良いところを研究し、持続可能な町づくりを目指して日々努力したいと思いません。今回のフォーラムに参加させていただき、地域の将来を左右する重大な使命を担う責任の重さと、やりがいのある仕事に身の引き締まる思いがしました。

小野市において、現時点で議会改革、基本条例は必要なのだろうか。

質の高い議会を実現していくため、議会活性化のために考える良い機会になりました。

(2) 全天候型陸上競技場の整備について

1. 市民交流センターの概要

文化活動、スポーツ活動及びレクリエーション活動を通して、自己が個性と能力を高めるとともに、教養を深め、健康の増進に資することを目的として、設置。

陸上競技場は、同センターの一施設であり、淡路島内で唯一の公認陸上競技場として運営している。施設の管理運営については、「指定管理者制度」を導入。

2. 施設運営の経過

陸上競技場は、昭和 43 年 10 月開設から平成 21 年まで青少年健全育成協会が管理・運営

平成 16 年に旧淡路勤労センター（本館・プール）が兵庫県から洲本市へ移管され、市民交流センターと名称変更し、野球場、陸上競技場も一体的に管理

平成 22 年度から、市民交流センターの施設全体で指定管理者制度を導入

3. 陸上競技場の施設内容

- ①名称 洲本市市民交流センター陸上競技場
- ②所在地 兵庫県洲本市宇原 1807 番地
- ③敷地面積 22,001 m²
- ④開設年月 昭和 43 年 10 月
- ⑤開場時間 午前 9 時から日没まで
- ⑥仕様 4 種公認陸上競技場
トラック 1 周 400m×8 コース



走り幅跳び、走り高跳び等のフィールド競技を行う場所に全天候型の舗装を施工

管理棟（管理室、シャワー室、更衣室等）

倉庫（陸上競技備品の収納）

⑦平成 31 年・令和元年の主な大会利用

- 4 月 6 日 淡路春季記録会
- 4 月 28. 29 日 淡路加盟団体対抗陸上競技大会
- 5 月 11・12 日 兵庫県高等学校総合体育大会淡路予選
- 5 月 11・18 日 兵庫県中学生陸上競技記録会淡路地区大会
- 7 月 13・15 日 兵庫県中学校総体淡路地区予選大会
- 8 月 3・4 日 淡路陸上競技選手権大会
- 9 月 1 日 淡路陸上競技新人大会
- 10 月 14 日 洲本市陸上競技選手権大会
- 10 月 9 日 洲本市小学校陸上競技大会
- 10 月 27 日 淡路小学校陸上競技大会

⑧陸上競技場の利用状況

H26年	15,576人
H27年	16,677人
H28年	18,323人
H29年	17,431人
H30年	15,525人



5. 所 感

5年に一度、陸連の規定等の変更のために、整備費用が3千万円程度かかるとお伺いし、大変驚きました。

市民交流センターの施設老朽化も今後の課題とされます。

ホール、体育館、会議室、プール、野球場、陸上競技場が同じ敷地内にそろっているのは、素晴らしいと思いました。



令和元年11月15日

小野市議会議長 様

派遣議員 川名善三 ㊟

行政視察報告書

先般、実施しました議員派遣行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 派遣日 令和元年10月30日（水）～11月1日（金）

2 派遣メンバー

- ・ 前田光教・河島三奈・岡嶋正昭・高坂純子・小林千津子・喜始真吾・藤原貴希
- ・ 久後淳司・村本洋子・川名善三

3 視察先及び調査内容

(1) 第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知

(2) 兵庫県洲本市（人口：約4万4千人、面積：182.38Km²）
全天候型陸上競技場の整備について

4 調査結果

○全国市議会議長研究フォーラム in 高知（10月30日・31日）

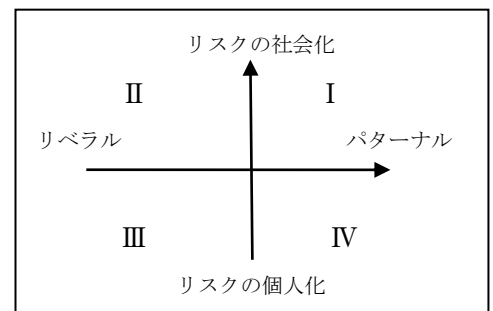
会場 高知ぢばさんセンター

テーマ 「議会活性化のための船中八策」

第1部 基調講演 「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」

講師 中島岳志（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授）

政治のマトリクスとは、①縦軸に配分を巡る軸（Y）を置き、②横軸に価値をめぐる軸（X）を置いて表現し、それぞれ、①縦軸の配分をめぐる軸は、セーフティーネットの強化（リスクの社会化）と自己責任（リスクの個人化）で対比。②横軸の価値をめぐる軸は、リベラルとパターナルで対



比する。一般的には、「リベラル」に対するものが「保守」とされているが、リベラルとは自由主義と解されるので、リベラル対保守との表現は、間違いであり、リベラルに対するものは、「パターナル」が正しい。希望の党の失敗の原因を分析すると、政党の特性により、マトリクスの4領域に各政党を当てはめることができるが、縦領域（Ⅰ－Ⅳ・Ⅱ－Ⅲ）と横領域（Ⅰ－Ⅱ・Ⅲ－Ⅳ）の連立は理解し易いが、斜め（Ⅱ－Ⅳ・Ⅰ－Ⅲ）となると政策的にかなり無理が生じるので、リスクが高いと言える。今後保守はリベラルに接近していく。大切なのは自分と異なる声に耳を傾けることで合意形成を図ること。政治は60点でよい、100点では、思い上がりになってしまう。



第2部 パネルディスカッション 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる（朝日新聞論説委員）

パネリスト 高部正男（市町村職員中央研修所学長）

横田響子（株式会社コラボラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授）

古川康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）

田鍋 剛（高知市議会議長）

高部正男（市町村職員中央研修所学長）

- ・横田響子（株式会社コラボラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授）
議会改革の具体的なアイデアとして①中長期視点で町の目指す方向を議論（人口減を前提に）②ガチンコ会議を多様な人材で実施 ③経験の機会提供
- ・古川康造（高松丸亀町商店街振興組合理事長）
「高松丸亀町まちづくり戦略」について、土地の所有と利用の分離。成功の前提はコミュニティーの存続。100年を見据えたまちづくりを
- ・田鍋 剛（高知市議会議長）
議会改革の取り組みとして、議会独自の行政評価の実施。課題として議会報告会の参加者が固定化している。

第4部 課題討議 「議会活性化のための船中八策」

コーディネーター 坪井ゆづる（朝日新聞論説委員）

パネリスト 滝沢一成（上越市議会議員）

久坂くにえ（鎌倉市議会議員）

小林雄二（周南市議会議長）

- ・滝沢一成（上越市議会議員）
議会の見える化、あらゆる方法で情報を開示。「ホワイトボードミーティング」を導入し、声の大きい議員の声よりすべての人の意見をフラット化
- ・久坂くにえ（鎌倉市議会議員）
妊娠して出産した初めての議員。様々な問題が顕在化し、会議規則に出産が欠席事由なし。産前、産後など期間の定めもなかった。会議規則は自ら変えられる。多様な人材と幅広い年齢層を受け入れることで議会の価値が高められる。
- ・小林雄二（周南市議会議長）
キーワードは「公開」と「対話」。議会基本条例に縛られない議会運営。

《所感等》

「議会活性化のための船中八策」をテーマとして、議会に対する厳しい世論に、議会が今後どのように変化することで、根強い「議会不審」をどう払しょくできるのか？その為には、質の高い議員による、質の高い議会を目指すことが重要であり、その具体策を考えるのが目的とされた。本年は統一地方選挙が施行されたが、その結果、低投票率、なり手



不足の深刻化、女性議員の不足などの地方議会への課題が顕在化した。結局は市民の議会に対する関心をいかに高められるが課題でありそのプロセスとしてたゆまぬ議会改革が必要とされている。また、平成18年の栗山町から始まった議会基本条例制定の流れが定着しつつあるが、今その中身が問われる時代となっている。今年の上越市、鎌倉市、周南市からそれぞれの議会取組の議会として成果が示されたが、それぞれ住民の議会に対する意識の変化については、判断が分かれるところである。

○兵庫県洲本市

人口：約4万4千人、面積：182.38 Km²

《項目》

○ 全天候型陸上競技場の整備について(11月1日)

(1) 洲本市の概要

淡路島の中央部に位置し、神戸淡路鳴門自動車道が南北を縦断するほか、島内の幹線である国道28号や県道洲本五色線、鳥飼浦洲本線などが地域拠点間を結んでいるなど、交通要衝として、重要な地位を占めている。[2006年](#)2月津名郡[五色町](#)と合併し、新制洲本市が発足し人口4万人を超える島内での行政上の中心市となっている。

(2) 全天候型陸上競技場の整備について

○市民交流センター陸上競技場について

- ・ 開設 昭和 43 年 10 月
- ・ 所在 洲本市宇原 1807 番地
- ・ 敷地面積 22,001 m²
- ・ 仕様 1 周 400m×8 コース、走り幅跳び、走り高跳び等のフィールド競技を行う場所には全天候型の舗装を施工
- ・ 施設 管理棟（管理室、シャワー室、更衣室等）、倉庫（陸上競技備品）
- ・ 市民交流センターの構成施設で、第 4 種公認陸上競技場（島内唯一）



《所感等》

今回視察した市民交流センター陸上競技場は、島内唯一の公認陸上競技場として、市内外からの利用も多いが、設置後 50 年を経過している。淡路島地域には、全天候型陸上競技場がなく、島内の選手は、全天候型でないこの競技場での練習を余儀なくされており、島外での競技において、不利な状況が続いている。また、洲本市においても、第 4 種公認を維持するために、5 年ごとの登録更新に際しては約 3,000 万円の改修工事が必要とされ、財政負担が重くなっていることから、淡路島全市を挙げて、県に対し、全天候型陸上競技場の設置を求めているものである。



洲本市市民交流センター陸上競技場 配置図

